1996

授業概要
【シラバス】

教養科

白梅学園短期大学

SHIRAUME GAKUEN COLLEGE

目次（教養科）

教養教育科目（１年）

ヒューマニズム論 ・・・・・・・・・・・・ 3
文学・フィクションと人間 ・・・・・・・・・・・・ 4
王朝文学の世界 ・・・・・・・・・・・・ 5
話し言葉の文芸 ・・・・・・・・・・・・ 6
西洋文学 ・・・・・・・・・・・・ 7
近代日本の歴史 ・・・・・・・・・・・・ 8
西洋史概説 ・・・・・・・・・・・・ 9
東洋美術 ・・・・・・・・・・・・ 10・11
演劇論 ・・・・・・・・・・・・ 12
現代社会論 ・・・・・・・・・・・・ 13
現代家族論 ・・・・・・・・・・・・ 14
日本国憲法 ・・・・・・・・・・・・ 15
市民生活と法 ・・・・・・・・・・・・ 16
政治学入門 ・・・・・・・・・・・・ 17
生活の経済学 ・・・・・・・・・・・・ 18
心理学入門 ・・・・・・・・・・・・ 19
マスコミュニケーション概論 ・・・・・・・・・・・・ 20
自然科学史 ・・・・・・・・・・・・ 21
生命の科学 ・・・・・・・・・・・・ 22
生物と環境 ・・・・・・・・・・・・ 23
生活の科学 ・・・・・・・・・・・・ 24
健康の生理学 ・・・・・・・・・・・・ 25
宇宙と地球 ・・・・・・・・・・・・ 26
総合英語Ｉ（教養科） ・・・・・・・・・・・・ 27～30
選択語学Ｉ英語 ・・・・・・・・・・・・ 31
選択語学Ｉ独語 ・・・・・・・・・・・・ 32
選択語学Ｉ仏語 ・・・・・・・・・・・・ 33
スポーツＡ（ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝと卓球） ・・・・・・・・・・・・ 34
スポーツＡ（テニス） ・・・・・・・・・・・・ 35
スポーツＡ（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ） ・・・・・・・・・・・・ 36
スポーツＡ（ｴｱﾛﾋﾞｸｽ） ・・・・・・・・・・・・ 37
スポーツＢ（キャンプ） ・・・・・・・・・・・・ 38
健康科学 ・・・・・・・・・・・・ 39
スポーツ科学 ・・・・・・・・・・・・ 40

専門教育科目（１年）

日本文学史（古代） ・・・・・・・・・・・・ 43
日本文学史（近・現代） ・・・・・・・・・・・・ 44
日本文学（中・近世） ・・・・・・・・・・・・ 45
国語学 ・・・・・・・・・・・・ 46
国語表現法 ・・・・・・・・・・・・ 47・48
史学概論 ・・・・・・・・・・・・ 49
史料講読 ・・・・・・・・・・・・ 50～52
日本古代史（考古学を含む） ・・・・・・・・・・・・ 53
文化論 ・・・・・・・・・・・・ 54
アジアと日本 ・・・・・・・・・・・・ 55
日本経済論 ・・・・・・・・・・・・ 56
イギリス文学講読 ・・・・・・・・・・・・ 57
英米事情講読 ・・・・・・・・・・・・ 58
英語表現Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 59・60
イギリス史 ・・・・・・・・・・・・ 61
アメリカ史 ・・・・・・・・・・・・ 62
日本美術史 ・・・・・・・・・・・・ 63
言語学 ・・・・・・・・・・・・ 64
民俗学 ・・・・・・・・・・・・ 65
情報処理概論 ・・・・・・・・・・・・ 66
教養演習Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 67～75

教職科目

教育原理 ・・・・・・・・・・ 79
教育心理 ・・・・・・・・・・ 80
道徳教育の研究 ・・・・・・・・・・ 81
特別活動の研究 ・・・・・・・・・・ 82
生徒指導の研究 ・・・・・・・・・・ 83
国語科教育法 ・・・・・・・・・・ 84
教育実習 ・・・・・・・・・・ 85

博物館科目

博物館学 ・・・・・・・・・・ 89
教育原理 ・・・・・・・・・・ 90
社会教育概論 ・・・・・・・・・・ 91
視聴覚教育 ・・・・・・・・・・ 92
博物館実習 ・・・・・・・・・・ 93

司書科目

図書館通論 ・・・・・・・・・・ 97
図書館資料論 ・・・・・・・・・・ 98
資料分類法 ・・・・・・・・・・ 99
資料分類法演習 ・・・・・・・・・・ 99
図書館活動 ・・・・・・・・・・ 100
青少年の読書と資料 ・・・・・・・・・・ 101
情報管理 ・・・・・・・・・・ 102
社会教育(社会教育概論) ・・・・・・・・・・ 103
視聴覚教育 ・・・・・・・・・・ 104

教養教育科目（２年）

総合科目人間 ・・・・・・・・・・ 107
総合英語Ⅱ（教養科） ・・・・・・・・・・ 108〜111
選択語学Ⅱ英語 ・・・・・・・・・・ 112
選択語学Ⅱ独語 ・・・・・・・・・・ 113
選択語学Ⅱ仏語 ・・・・・・・・・・ 114

専門教育科目（２年）

日本文学史(中・近世) ・・・・・・・・・・ 117
日本文学(古代) ・・・・・・・・・・ 118・119
日本文学(近・現代) ・・・・・・・・・・ 120
漢文学 ・・・・・・・・・・ 121
日本中世史 ・・・・・・・・・・ 122
日本近世史 ・・・・・・・・・・ 123
日本近現代史 ・・・・・・・・・・ 124
近代と西洋思想 ・・・・・・・・・・ 125
アメリカ文学講読 ・・・・・・・・・・ 126
英語表現Ⅱ ・・・・・・・・・・ 127・128
イギリス文学史 ・・・・・・・・・・ 129
アメリカ文学史 ・・・・・・・・・・ 130
西洋文学思潮 ・・・・・・・・・・ 131
芸能史 ・・・・・・・・・・ 132
映像文化論 ・・・・・・・・・・ 133
比較文学 ・・・・・・・・・・ 134
東洋文化史 ・・・・・・・・・・ 135
現代日本政治 ・・・・・・・・・・ 136
日本女性史 ・・・・・・・・・・ 137
現代女性論 ・・・・・・・・・・ 138
文化人類学 ・・・・・・・・・・ 139

社会思想史 ・・・・・・・・・・・ 140
西洋史 ・・・・・・・・・・・ 141
国際関係論 ・・・・・・・・・・・ 142
アジア・アフリカ論 ・・・・・・・・・・・ 143
教養演習Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 144～152
卒業研究 ・・・・・・・・・・・ 153

教職科目

書道Ⅰ ・・・・・・・・・・・ 157
書道Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 158
教育実習 ・・・・・・・・・・・ 159

博物館科目

博物館実習 ・・・・・・・・・・・ 163

司書科目

参考業務 ・・・・・・・・・・・ 167
参考業務演習 ・・・・・・・・・・・ 168
資料目録法 ・・・・・・・・・・・ 169
資料目録法演習 ・・・・・・・・・・・ 169
資料整理法特論 ・・・・・・・・・・・ 170

教養教育科目（１年）

【授業科目名】　ヒューマニズム論	【担当者】　田中未来・黒田　瑛

【開講期】　（1年前期　・○　1年後期　・　2年前期　・　2年後期）

【授業目標】

「ヒューマニズム」の理念について、その展開を述べ、つぎに現代社会の諸問題に対応するときの「ヒューマニズム」の視点を示す。またそれを現実に自らの生き方に反映させることについて学生とともに考える。「ヒューマニズム」は本学の建学の理念として、今日まで学園の教育を支えた思想である。

【テキスト・参考書】

テキスト：　な　　し

参考書　：　随時紹介する。

授　業　計　画

授業内容を以下のように構成する。

第1部　ヒューマニズムの意義（2回）

- ヒューマニズムの語義
- 今、なぜヒューマニズムか
- 人間を考える
  - 生命、精神、実存、統一体としての人間
- 人間の尊厳と価値

第2部　ヒューマニズムの展開（4回）

1. 東洋と西洋
2. 「エロス」とヒューマニズム　－ギリシャ思想－
3. 「アガペー」とヒューマニズム　－キリスト教思想－
4. 「人間らしい文化」とヒューマニズム　－ルネッサンス－
5. 「自由と人権」とヒューマニズム　－啓蒙思想と市民革命および産業革命－
6. 人間の現実の生活の尊重　－プラグマティズム－
7. 「主体性」と「限界」　－実存主義－

第3部　現代とヒューマニズム（4回）

1. 科学と技術　－自然、環境、倫理、労働、情報－
2. 組織と人間　－個と集団、自由と統制、社会制度、国家－
3. 大衆社会状況の広がり　－没個性化、消費文化への志向、外部志向型の人間、操作・管理される社会－
4. 人権思想の発展　－障害者、高齢者、女性、子ども、少数民族－
5. 教育・福祉とヒューマニズム　－生涯学習、発達権、教育を受ける権利、生存権、幸福追求権、ヴォランティア

第4部　ヒューマニズムの課題（2回）

【評価方法】

レポート提出

【授業科目名】　文学・フィクションと人間	【担当者】栗田廣美

【開講期】　1年前期

【授業目標】　文学作品に描かれた「世界」とは何なのか。それは先ず（少なくとも）、我々が生きているこの「現実」とは別の、「もう一つの世界」だろう。本講の目標は、この「もう一つの世界」としての「文学」(一般的には「芸術」）の構造を探りつつ、同時に、それとの関係の中で見えてくる「現実世界」の意味をも考えることにある。

【テキスト・参考書】

教科書は用いない。講義の中で指定する若干の小説を読むことが課題になる。

授　業　計　画

○　例えば「小説」に描かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。しかし我々は、なぜワザワザこんな「作り事」を生み出し、求めて来たのか。なぜ、そんなウソッパチに感動したり、「生き方が変わってしまった」などという驚くべきことがおこるのか、という事を考えたい。

これを考えることは、「文学」のみならず、「芸術」一般を考える出発点にもなろうし、ひるがえって、（我々が生きている）この「現実」なるものの意味を考えることでもあろう（「現実」はなぜ「フィクションではない」などと言えるのか)。

○　講義は概ね、以下の三点をめぐって順次展開するはずである。

①　［フィクション論］……「フィクション」とは何か、それと「現実」は、いかなる関係にあるか、という問題を軸に考える。

②　［文学作品における「方法」について］……小説を中心に、「もう一つの世界」がどのような構造を持っているかを考える。

③　［日常性と非日常性］……ひるがえって、我々が「生きている」（と思っている）この「世界」のリアリティー（あるいは限界）について考える。

○　若干の課題作品（講義の中で指示する）を読むのは当然ながら、そのほかにも、講義でふれる作品を意欲的に読んで行くこと。

「芸術と現実」に関する自分なりの問題意識を、可能な限り鋭く研ぎ澄ますこと。

この二つの前提があれば、講義は決して「難解」ではない。

【評価方法】　筆記試験（自筆ノート参照可）。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する小テスト（1～2回）も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。

【授業科目名】 王朝文学の世界　　**【担当者】** 久保木寿子

【開講期】 1年　　後期

【授業目標】“受験文法”のために日本の古典作品の多くが、横にちょん切られたままで終わってしまう。が、優れた古典は、作品としての主張をもっており、解読をこそ待っている。おもしろさに気づくことが第一の目標である。次いで、作品の主張の意味を時代に即して理解することを目指したい。

【テキスト・参考書】

岩波文庫『竹取物語』・配布プリント
参考書は最初の授業で紹介する。

授　業　計　画

平安時代初中期にかけて、口伝えによるカタリが物語として生成し、主題性を明確にしてくる。竹取物語と源氏物語に焦点を合わせ、生成初期から成熟への過程を追う。

1、さまざまな竹取の物語
2、カタリの話型(パターン)と、話型(パターン)による物語
3、かぐや姫はなぜ天界に帰るのか
4、物語の中の異界(1)――『古事記』の場合
5、物語の中の異界(2)――『源氏物語』明石へ
6、紫上の命日
7、「形代(かたしろ)の物語」対「“おこ”の物語」
8、地上をさまよう「浮舟」
9、王朝物語の主題(テーマ)
10、なぜこのような主題(テーマ)が取り上げられるのか

おおよそ以上のような計画で進めたい。

【評価方法】

定期試験時レポート、及び授業時の［マトメメモ］による。

【授業科目名】 話し言葉の文芸	【担当者】東喜望
【開講期】 1年 前期	

【授業目標】文字で書かれた文芸が制作される以前に口ことばでうたわれ、語られた文芸があった。かつて文字は支配層のものであった。文字を知らない民衆の創造した謡（うた）や話は、あらゆる文芸の基礎を成している。ここでは、基層文化としての民間説話を、概論的に説明しながら、その伝承のコスモロジーに至りたい。

【テキスト・参考書】
1. 講義資料を配布する。 2. 参考書・岩波文庫・関敬吾編「日本の昔ばなし」・Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ。（「こぶとり爺さん」他・「桃太郎」他・「一寸法師」他）

授業計画

講義はおよそ以下の項目にそって行う。

1. 自然と文化
2. ことばと文化
3. 文芸の起源
4. 口承文芸
5. 昔話の形態
6. 昔話ルーツ
   〈浦島・竹取翁・桃の子太郎など〉

【評価方法】定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】衣川清子
【開講期】 1 年 後期	

【授業目標】

女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。

【テキスト・参考書】

テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。

授　業　計　画

この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、作者の横顔、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、一種の文学案内にしたいと思っています。

毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、ジェイン・オースティン『高慢と偏見』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、ルーシー・モード・モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリッパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』、ローラ・インガルス・ワイルダー『大きな森の小さな家』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、イサベル・アジェンデ『精霊たちの家』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』などです（変更する場合もあります）。音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読んでみたいと思っている学生の聴講を期待します。

授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。

【評価方法】

平常点とレポートの総合評価とします。授業の中で取り上げた作品またはその他の指定する作品について、「書評」（「感想文」ではなく）の形で期末レポートを書いていただきます。
書き方については授業の中で説明します。

【授業科目名】 近代日本の歴史	**【担当者】** 平賀明彦

【開講期】 １年前期・１年後期

【授業目標】
歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史に題材をとりながら、時間的流れのなかで変化をとげていく社会を構造的にとらえていく方法について考えていきたい。

【テキスト・参考書】
テキスト：特になし
参考文献：中村政則『歴史のこわさ・面白さ』　筑摩書房

授　業　計　画

必ずしも時代を追って歴史を眺める方法をとらず、日本の近代化過程で、名もない人々の生きざまが、どのように歴史をつくっていくことに関わりをもったかということを、いろいろな題材を通して考えていく。その中で、私たち自身が主体的に歴史に関わるとはどういうことかを明らかにしたい。差し当たって、アトランダムに次のようなテーマを設定している。

◇ローアングルからの歴史
◇民衆史、底辺史、個人史の意義
◇歴史における意図と結果
◇近代化の中の中央と地方
◇近代化の中の全体と個人
◇歴史を語る人との触れ合い
◇歴史を突き動かすもの

【評価方法】
最後にレポートを課す。

【授業科目名】 西洋史概説	【担当者】川鍋光弘

【開講期】 1 年　後期

【授業目標】 近代日本の目標としてきた西洋近代文明は、今や、その根本的な問題点を表面化させつつある。西洋近代市民社会はどのような問題をもっているのか、他の地域との関連のなかで考えてゆきたい。

【テキスト・参考書】 テキスト　とくに使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書「地域からの世界史」シリーズ（朝日新聞社編）
第10巻 地中海 第11巻 ロシア・ソ連 第12巻 東ヨーロッパ 第13巻 西ヨーロッパ(上) 第14巻 〃(下) 第15巻 北アメリカ

授　業　計　画

国際化の現実のなかで、高校社会科の必修世界史を修得していると思われるので、年代を追っての西洋の歴史の学習をするのではなく、西洋近現代文明と他の地域との関連についてのテーマをいくつかとりあげて、学生自身がひとつの歴史的事実についてどう考えるかを重視する授業としたい。授業の形態として意見発表・討論・グループ学習などをとりたいが、受講者の人数によって不可能の場合は、小レポート提出などを考えている。

さしあたり、次のようなテーマを考えているが、授業進行によって変更する。

① 西洋とは
② 日本人の"西洋"観
③ ヨーロッパの民族問題
④ ヨーロッパの宗教対立
⑤ 絶対王政と西ヨーロッパの世界進出
⑥ 産業革命と世界
⑦ 市民革命とナショナリズム
⑧ 帝国主義と社会主義
⑨ ファシズムと人民戦線
⑩ 東西冷戦とヨーロッパ統合

各テーマをとりあげる場合も、できるだけ具体的な教材を用意して、授業をすすめたい。

【評価方法】 ① 出席点
② 随時に行うアンケート・感想・意見などの提出物の評価
を考えているが、受講者の人数により、方法を変えることがある。

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】神道明子
【開講期】 1年 前期	

【授業目標】

中国美術への理解を深めることにより、東洋の中の中国美術、ひいては東洋の中の日本美術という視点を持つことに努める。また美術作品を通して、背景となる歴史・政治・文化の流れを考える力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト ： 授業時に資料を配布する。

参考書 ： 『中国美術史』 マイケル・サリバン著 新潮社

『中国美術史』 小杉一雄著 南雲堂 他

授 業 計 画

古代中国の美術は日本の美術に大きな影響を与えた。特に我が国の仏教美術は、中国・朝鮮の美術を理解することなしには語ることができない。しかしその中国の仏教美術もまたインドからの外来文化である。これらのことを念頭におき、前半は中国の何千年という歴史を支えた仏教以前の美術、主として都市や墳墓などの考古学的発掘の成果にみる美術を中心に話を進める。

後半はインドから西域、或いは南方のルートを通って中国に伝わった仏教美術が、どのように展開してゆくのかを現在中国各地に残る石窟寺院の仏教彫刻を中心に、図やスライドを使って講義を進めていくことにする。博物館、美術館などの見学も随時行う。

（1） 彩陶・黒陶
（2） 殷・周・春秋戦国時代の美術 青銅器文化
（3） 秦始皇帝と兵馬俑坑
（4） 漢の明器と画像石
（5） 仏教伝来と初期の仏像
（6） 炳霊寺石窟と麦積山石窟
（7） 敦煌莫高窟の壁画と塑像
（8） 雲崗石窟
（9） 竜門石窟
（10） 隋・唐の仏教美術

【評価方法】

平常点、レポート 他

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田磯夫

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

東洋といっても範囲が広く、各地域では相異なる文化圏に属し、異なった美術様式をもっているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこでこの講座では、アジアの諸地域にわたって強く影響を与えた仏教に焦点をあて、極東の国・日本で生み出された仏教美術を概観し、東洋美術の特質を考察する。

【テキスト・参考書】

参考書 ：辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社

授 業 計 画

日本の仏教美術は近世以前の日本美術の形成・発展において常にその母胎となってきた。この講座では、まず仏教美術理解の基本である仏像の見方について学び、古代から中世に至る仏像彫刻を取り上げ、彫刻様式の流れの理解につとめる。スライド使用。

以下のテーマに沿って進める。

①はじめに―東洋の文化圏とシルクロード
②仏教美術について―仏像の見方(1)
③仏教美術について―仏像の見方(2)
④飛鳥時代の彫刻Ⅰ―仏教伝来と最初の仏像
⑤飛鳥時代の彫刻Ⅱ―法隆寺の仏像と止利仏師
⑥白鳳時代の彫刻―旧山田寺の仏頭
⑦天平時代の彫刻Ⅰ―薬師寺の仏像
⑧天平時代の彫刻Ⅱ―東大寺の仏像
⑨平安時代の彫刻Ⅰ―木彫の誕生と一木造
⑩平安時代の彫刻Ⅱ―寄木造と仏師定朝
⑪鎌倉時代の彫刻―南都復興と慶派仏師
⑫講義のまとめ

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 演劇論　　**【担当者】** 高橋秀雄

【開講期】 1年　前期

【授業目標】 "人生は劇場なり"という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇についての考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探求する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授　業　計　画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1、宗教儀礼と演劇
2、悲劇と喜劇
3、能と「花伝書」
4、歌舞伎と「虚実皮膜論」
5、リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
6、歌舞伎と新劇
7、オペラとミュージカル
8、比較演劇論

【評価方法】

1、期末のレポート
2、授業時の小レポート
3、授業時の平常点

以上、左記3項による総合評価

【授業科目名】　現代社会論	【担当者】　民秋　言

【開講期】　1年前期

【授業目標】

現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えるとき、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。

【テキスト・参考書】

講義中に適宜指示する。

授　業　計　画

1．「人間が生きる」ということ　－　社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。

2．人間の行動・行為　－　人間の生活＝生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。

3．「人間らしく」生きることと欲求　－　われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。

4．人間を特徴づけるパーソナリティ　－　人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。

5．行動様式としての文化　－　とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。

6．集団生活のあり様　－　人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。

7．現代日本社会の諸相　－　現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。

【評価方法】

ペーパーテスト

【授業科目名】　現代家族論	【担当者】　民秋　言

【開講期】　1年後期

【授業目標】

人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。

【テキスト・参考書】

望月　嵩、木村　汎共編　『現代家族の福祉－家族問題への対応』　培風館

授　業　計　画

1．人間にとって家族とは何か　－　家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。

2．家族のはたらき　－　家族は基礎的集団といわれ、いろいりなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一様に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。

3．家族のタイプ　－　家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにいはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。

4．家族のしくみ　－　家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との２面から検討する。

5．家族と福祉　－　家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。
(1) 子どもの養育と家族福祉
(2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉
(3) 高齢化社会における家族福祉

6．まとめ　－　今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。

【評価方法】

ペーパーテストを期末に実施

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】工藤繁裕

【開講期】　1 年　　後期

【授業目標】

日本国憲法の基本構造を理解し、法的・憲法的考え方を身につける。

【テキスト・参考書】 テキスト：特に指定しない
参考文献：樋口陽一「憲法」（創文社）
野中・江橋編「憲法判例集」（有斐閣新書）

授　業　計　画

憲法の基本原則を中心に、判例も参照しながら、おおよそ以下の項目に沿って進める。

1　憲法および日本国憲法
2　主権
3　議会
4　内閣と行政
5　地方自治
6　裁判
7　人および市民の権利　（１）古典的権利
8　　同　　　　　　　　（２）現代的権利
9　　同　　　　　　　　（３）市民の権利と義務
１０　国際社会と平和

【評価方法】

【授業科目名】 市民生活と法	【担当者】工藤繁裕
【開講期】 1 年 後期	

【授業目標】

日常生活を法の目から眺め、同時に日常生活を規制しているこの法そのものについて考えることを通じて、法的な考え方を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

考慮中

授 業 計 画

現代社会生活の一領域・一局面をピックアップし、一話完結の形で進める。各テーマでは、その実態・規範・判例を検討し、その問題点を考える。現在予定しているテーマは以下の通りであるが、ほかにも、女性、消費生活、差別、税金、高齢化社会、社会保障などなど、いわば無数にある。可能な限り、受講者の希望も取り入れて決めることとする。

0 はじめに－－市民生活と法
1 生命と法
2 家族と法
3 教育と法
4 労働と法
5 情報と法
6 医療と法
7 犯罪と法
8 環境と法
9 地域社会と法
10 国際社会と法

【評価方法】

【授業科目名】 政治学入門	**【担当者】** 加地直紀

【開講期】 1 年　前期

【授業目標】 政治とは権力闘争であることを、政治制度、イデオロギー、国内外の政治情勢に関する解説をとおして理解していただくことを目標とする

【テキスト・参考書】
テキスト：中村勝範『正論自由』第12巻（慶應通信、平成8年）

授　業　計　画

政治とは権力闘争である。したがって政治の世界では生身の人間の欲望が渦巻いており、政治は倫理や道徳できりきれないものとなる。

この講義では、道徳できりきれない政治のダイナミズムについて、具体的な出来事を通して解説する。

だいたい以下の手順で講義をすすめる。

① 政治制度の解説

② イデオロギーの解説

③ 国内外の政治情勢について

※ 私語、飲食は厳禁である

【評価方法】
筆記試験またはレポート

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山　哲朗

【開講期】 1年前期

【授業目標】

経済の基本的な仕組みを理解し、《生活と経済》の関連をめぐる基礎的な知識の習得をめざす。同時に、社会的な諸事象を《経済学の眼》で見る方法の重要性について学習する。

【テキスト・参考書】

テキスト：池上惇『経済学への招待』（有斐閣、1994年）
参考書：講義において適宜紹介する。

授　業　計　画

人間の《生活》の営みを《いのちとくらしの再生産》としてとらえ、《いのちとくらしの再生産》が「豊かになる」ということが本来的にどのような意味であるのかについて、以下のテーマを中心にしながら講義を進めていく。必要に応じて、ビデオによる学習も取り入れる予定である。

(1) 人間の《生活》と欲求の発展段階
(2) 人間の欲求と市場経済
(3) 世界の経済体制
(4) 戦後日本経済と産業構造の変化
(5) 経済のサービス化・ソフト化
(6) 経済成長と企業社会
(7) 地球環境問題と経済構造の転換
(8) 世界経済のなかの日本
(9) アジア経済のなかの日本
(0) 《生活の豊かさ》と経済政策

【評価方法】

学期末試験の成績と授業への出席等を勘案して総合的に評価する。

【授業科目名】　心理学入門	【担当者】　林　潔

【開講期】　1年後期

【授業目標】

心理学の基本的な領域について，紹介します。

【テキスト・参考書】

テキスト：なし

図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。

重野純「キーワードコレクション心理学」，金子隆芳「心理学フロンテア」，

大山正「心理学への招待」，北尾倫彦「心理学への招待」，

岡本栄一「心理学テイータイム」，藤本忠明「ワークショップ心理学」他

授　業　計　画

1. 心理学のなりたち
   心理学の略史について

2. ものの見方と人間の行動
   知覚と認知について考える

3. 人間の行動と条件づけ
   行動論について考える

4. 性格について
   基本的な性格論，性格理解の試みについて

5. 社会・集団と人間行動
   集団とリーダーの役割について

【評価方法】

平常点，中間試験，その他未定

【授業科目名】マスコミュニケーション概論	【担当者】瀬木博道

【開講期】 1 年　　前期

【授業目標】本授業は図書館司書科目に指定されているので、「図書館の自由に関する宣言」の基礎になる「知る権利」を重点に勉強する。これと平行して、卒業後、社会で必要となる広報、広告の理論と実際をさぐって行きたい。

【テキスト・参考書】
瀬木博道ほか共著：「広報の基礎 I」
日経広告研究所編

授　業　計　画

- マスコミとは何か。現状（上）
- 同上（下）
- ジャーナリズムとは
- 言論の自由と知る権利（上）
- 同上（下）
- 図書館の自由と知る権利
- 広告概論
- 広報概論（上）
- 同上（下）
- マスコミのあす――新聞を中心に。

【評価方法】
受講態度／受講欠（席）ならびに筆記試験

【授業科目名】 自然科学史	**【担当者】** 柳下登

【開講期】 1年　後期

【授業目標】 自然科学を学ぶことは、色々な公式、記号、概念等を覚えることだと思い、それが理科嫌いの原因となっている。科学は暗記のためのものではない。人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学することは真善美を追求する文化系の諸活動と同根である。科学の歴史は人間の歴史である。ここでは科学を語るためではなく、発想を逆転し、人間を語るために科学の足跡を追うことにした。

【テキスト・参考書】

テキスト：自然科学入門（甲斐義幸、二宮勘輔）学術図書出版社

参考書：科学の文化史（平田　寛）朝倉書店。　科学思想のあゆみ（Ｃｈ．シンガー）岩波書店。他。

授　業　計　画

この講義では年代順の諸科学の歴史ではなく、講義目標にあわせ、「サルから人間への道で得たこと」「物質」「宇宙」「生命」の主要テーマの解明の過程を考察することにした。細目は講義の全体像を理解するために記した。

1）科学を成立させた人間の条件

ａ．森の生活者サル類がヒトをつくる　ｂ．「木から落ちたサル」のサルばなれへの道　ｃ．四本足から二本足へ　ｄ．道具が人間をつくる　ｅ．生きること（生活）が自然についての理解を深める　ｆ．道具で道具をつくる　ｇ．定住と農耕　ｈ．技術が先か科学が先か

2）科学の芽生え

ａ．ナイル川のもたらしたもの：暦、幾何学　ｂ．ピラミッドのもたらしたもの：数学　ｃ．ギリシアの自然学の確立　ｄ，ローマ、アラビア時代、中世の科学の特徴

3）物質の根源を求めて

ａ．タレスの「アルケー」　ｂ．デモクリトスの「アトム」　ｃ．アリストテレスの「四元素説」　ｄ．デカルの「粒子説」ｅ．ドルトンの原子論　ｆ．メンデレーフの原子概念の深化　ｇ．原子構造と原子核の世界

4）宇宙の動きと姿を求めて

ａ．古代の宇宙観　ｂ．コペルニクスの地動説　ｃ．ガリレイの「天文学対話」と「新科学対話」　ｄ．ニュートンは地上の法則を天界へ導入　ｅ．太陽系の起源に関するカント、ラプラスの星雲説　ｆ．星の一生と原子核反応　ｇ．宇宙は膨張する

5）生命の源と進化

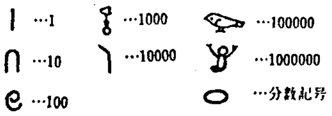
ａ．古代における生命の「母なる大地」の考え　ｂ．アリストテレス生命の完成への目的　ｃ．ヘルモンの自発生説ｖｓパスツールの実験　ｄ．細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ　ｅ．ラマルク：生物はと複雑になった　ｆ．ダーウイン：生物は共通の祖先から　ｇ．オパーリの「自然発生」説の復活　ｈ．メンデルの遺伝の粒子説　ｉ．ワトソン・クリックのＤＮＡの２重らせん構造の発見　ｊ．バイオテクノロジー

6）まとめ：今日の自然像，ピートン物語

実験：火をおこしてみよう　かまぼこの板とアジサイの枝（太さ約２㎝で長さ２０㎝、乾かしておく）を用意する。

【評価方法】

点はエジプト数字で知らせる。



講義時の豆レポート４回と定期試験にかわる課題レポート１回

【授業科目名】 生命の科学	【担当者】吉川研二

【開講期】 1年 前期

【授業目標】 私たちの命は多くの生物に支えられています。地球上の清浄な大気、水、土壌は生物たちの共同作業によって維持されています。食糧、医薬品など様々な生活必需品の源は生物です。一般には難しいといわれる生物学ですが、生物学は人間が生きていく上で最も大切な基礎学問です。

【テキスト・参考書】

プリント（複数の書籍を参考資料として使用する。）

授　業　計　画

地球上に生命が誕生してから３５億年、多種多様な生物が登場し、繁栄し、消滅してきました。しかしながら、生命の設計図である遺伝子、すなわちＤＮＡは生命の誕生から現在まで脈々と伝えられてきました。顕微鏡でしか見ることのできない微生物から巨大な生物であるシロナガスクジラやセコイアまで、その基本は同じです。基本は同じでも、生物を比べて見るとその形、生態、行動など一つとして同じものはありません。私たちが今見ている生物はそれぞれが進化し、生きてきた姿なのです。何故こんなにも多様な生物が存在するのでしょうか。

エイズ、アレルギー、遺伝病、人口や資源、環境など生物学に関わる問題は山積みしています。生物学はまた日進月歩の学問です。農学、医学、薬学、栄養学、遺伝子工学、心理学など応用分野も多方面にわたっています。授業ではいくつかの生物学の話題を拾いながら、生命について、生命現象の謎について紹介していきます。

- 生きているということ
- 生命の起源
- ＤＮＡ
- 種とは何か
- 性の誕生
- 病気と闘う
- 生命の共生
- 生命倫理・環境倫理

【評価方法】 レポート＋筆記試験

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】小作明則
【開講期】 1 年 後期	

【授業目標】

『ヒト』を含めた地球型生物とその生息環境である地球との科学的かつ歴史的な総合認識を持つことでこれからの地球環境について個人個人の問題意識を持てるようにする。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

全ての地球上の生物は意識するしないは別として必ず環境という枠の中で生れ、生活し、滅んでいきます。今日、「ヒト」の経済活動のために地球上のあらゆる環境は地球誕生以来５０億年の間で最も激しく、そして経験したことのないかたちで激変する時代に直面しています。このような状況の中で「生物と環境」の講義ではまず地球上で生活している生物がその生物を取り巻く環境とどのような関連をもって生活しているかについて概説し、次に生物を取り巻く環境の変化とその生物の対応について具体的かつ生態学的見地からの理解を深めます。そして最終的にヒトという動物の存在が地球環境にどのような歴史的かつ経済的背景をもって影響を及ぼしてきたかについて学んでもらいたいと考えています。以上述べたことは現在大きな問題と成っている種々の「地球環境問題」を理解し、それにたいして我々がどのような問題意識をもち、さらに具体的対応策を個人のレベルで立てていくことができるかを考える際の手引きになるよう構成するつもりです。

講義の中ではできるだけ実物の生き物に接する機会を作り、疑似体験ではない、直接体験の機会を多く持ちたいと思っています。

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢 靖臣

【開講期】 1年前期

【授業目標】
現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。

【テキスト・参考書】

授業の中で項目ごとに紹介する。

授 業 計 画

物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。

1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。
2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。
3. 原子と分子と私たちの生活。
4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。
5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。
6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。
7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。
8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。
9. アルコールの正体は何であろうか。
10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。
11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。
12. 物質科学とエネルギー
13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。
14. 石油資源と石油化学を考える。
15. 科学は地球を救えるか。

【評価方法】 試験、レポート、出欠により評価する。

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】境広志

【開講期】 1 年　　後期

【授業目標】

より積極的・創造的で高度な健康を獲得するためには「自分の健康は自分で管理する」という意識を持つことが大切である。本講では、健康管理に必要な様々な知識を学び、それらを生活のなかで実践していく態度を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

《テキスト》使用しない
《参考書》　参考図書・文献等は講義のなかで紹介していく

授　業　計　画

健康の生理学では、現代人の健康問題（成人病・ＡＩＤＳ・ストレス・食生活・運動不足…）についてを取り上げ、それらを通してより積極的・創造的で高度な健康を獲得するために必要な事項について学習していく。さらに、健康づくりを目的にスポーツを日常生活のなかに取り入れていく場合、各自の条件に応じてどのように実践していけば最大限の効果が得られるかについて、最新の情報やデータから考えていく。また、内容によっては理解を深めるために視聴覚教材を使用していく。
主な内容は以下のとおりである。

(1) 成人病の予防
(2) 免疫とＡＩＤＳ
(3) 子どもの健康とスポーツ
(4) 中高年の健康
(5) 長寿の科学
(6) 姿勢と健康
(7) 健康づくりのためのスポーツ
(8) スポーツ外傷・障害
(9) ストレスと健康
(10) 食事・スポーツと肥満

【評価方法】
①課題レポート
②授業時の小レポート（不定期）

【授業科目名】 宇宙と地球	【担当者】杉村新
【開講期】 1 年 前期	

【授業目標】

皆さん知りたがり屋になってください．自然を知るのは，人生の基本です．そして，成るほどなあと思うようになってください．それは自然を理解していく一歩一歩なのです．皆さんがそういう一歩一歩を感じることができれば，担当者の幸せであり目標でもあります．

【テキスト・参考書】

テキスト：「新訂地学図解」（第一学習社）
参考書：（指定図書）「図解地学IA」（第一学習社）

授業計画

最初の時間にアンケートをします．そのためにテキストが必要です．このアンケートの結果に基づいて，担当者の側で授業内容を“選択”します．第２回目の時間以後もテキストは必ず持ってくること．
講義中のおしゃべり厳禁．
毎回スライドを映しながら講義します．
授業は必ずしもテキストの順序（下記）通りではありません．順序未定．
テキストの内容の抜粋：
震源，地震，火山，岩，堆積，地質，地殻変動，プレートテクトニクス，化石，資源，鉱物，環境保全，大気，雲，雨，海，星，銀河
こんなに沢山はできませんから“選択”するのです．

【評価方法】
持ち込み不可の試験で成績をつけます．自然科学は暗記物ではないから，テキストのまる暗記はダメ．内容の理解の程度を判断して採点します．

【授業科目名】　総合英語Ⅰ（教養科）	【担当者】大佛 義信

【開講期】　１年前期・後期

【授業目標】
英語の文化の源泉の１つに触れる機会をもつことが望ましい。
テキストはシェイクスピア「リア王」のストーリィを現代英語で叙述しながら、著者の評価も織り込み、原文も挿入されている。多角的な追究が可能である。
① 内容を構成と人物に注目しながら正しく読解できる。
② 内容について簡単な英語の設問に答えられる。
③ 復習としてテキストの英文を聞きながら理解できる。
④ ストーリィを英文で要約できる。

【テキスト・参考書】
菅 泰男 ・ 田中 晋 編注
"James Kirkup's Tales from Shakespeare King Lear" 朝日出版社
参考教材は担当者が用意する。

授　業　計　画

次の指導項目を順次授業計画に組むものとする。

1. 長文読解のためのsyntax中心の文法のまとめを行うとともに、文やパラグラフの結合、連続性に及ぶようにする。（授業はじめの３０分、数回を使う）
2. 古典劇が人間の問題をどのように提示し、解いていくか、考えることで文学作品を読む意義をつかませる。
3. シェイクスピアの作品の分類と特徴について概括する。
4. シェイクスピアの他の悲劇との比較でこの作品の特徴を考えてみる。
5. 著名な論文からの引用をいくつか扱って、作品評価の視野をひろげる。
6. シェイクスピアの劇詩と叙述について、テキストの原文を例に詩劇の特徴を考察する。合わせて、英詩韻律法の概括を行う。
7. 作品の構成と人物についてまとめを行う。人物については感想を書かせて発表させる。
8. ストーリィを英文で要約させる。
9. 原作の１つの解釈としてビデオ映画をみながら鑑賞をすすめる。

（１回の授業の大体の構成）
テキストの内容を平易な英語で導入。
英文構造の正確な把握のための訳読。
リスニング　→　テキストの聞きとりと点検。
英語の設問。
基本的な英語表現と語彙をふやすために簡単なoral composition。
授業はじめに時に時事英語を入れたい。

【評価方法】
試験を中心に、課題、授業中の発表、出席状況を加える。

【授業科目名】　総合英語Ⅰ（教養科）	【担当者】須藤 彩子
【開講期】　１年前期・後期	

【授業目標】
英語を学ぶ動機や必要性は様々であろうし、現在すぐに使う場があるかどうかも個人によってまちまちであろう。したがって、この授業では、どんな英語による活動に対しても基礎となるような英語力を養うことを目標とする。具体的には聴解と読解の訓練をじっくりと体系的におこなう。

【テキスト・参考書】
（聴解）Raoul Cervantes　他著　Start Listening　（英潮社新社）
（読解―精読・語彙）Dean Curry 著　Right Reading（Macmillan Language House)
（読解―速読）Donald Sobol著　渋谷雄三郎編Two-Minute Mysteries（Macmillan)

授　業　計　画

授業予定（前期）

Start Listening　1-7 課　（授業二回につき一課すすみます）
（テキストの項目　１　だれのですか？　２　どこへいくの？　３　予定を教えてね　４　はじめまして　５　今何時？　間に合うかしら？　６　お値段は？　７　道にまよってしまいました）

Right Reading　1-12章　（授業一回につき一章すすみます）
（テキストの項目　１－４　四季　５－６　鯨　７－８　刈り取り機の発明　９－１０　狩りに使われる鷲　１１　セコイアって何？　１２　大河ミシシッピー）

後期の詳しい予定は後期授業開始時に配ります。速読のテキストは主に後期に使い、前期中に使うときは、その都度指示します。また、随時参考としてプリントを配ります。
宿題として、毎回、授業開始時にRight Readingの問題の答えを提出してもらいます（採点します。また、遅れたものは受け取らないので注意すること）。
前期には授業開始時の小テストを３～５回程度予定しています。前期最後の小テストは最終日に実施する予定で、高めの配点とします。遅刻、欠席の場合も、追試験はいっさいしないので、必ず当日にうけること。
授業時間内にできるだけ力をつけることを目標とした授業なので、積極的に参加すること。つまり、積極的に発言したり、課題に取り組んだりすること。音読の練習も大きな声で！積極性もコミュニケーション能力のひとつです。

【評価方法】
小テスト＋宿題（採点）、出席、授業参加度を総合的に評価する。（特に注意を促したいのは、どんな理由であっても、遅刻、欠席の場合は総合点が回数に応じて減点されるということである。なかでも無断欠席の場合と回数が多い場合は大きく減点されるので注意）

【授業科目名】　総合英語Ⅰ（教養科）	【担当者】長尾 主税

【開講期】　1年前期・後期

【授業目標】

リスニングを中心に、基本的な英語運用能力の養成を目標とする。

【テキスト・参考書】

開講時に指示する。

授　業　計　画

日本語の発音とは決定的に異なる英語の基本的な発音、強勢、抑揚についての知識を習得した後、リズムと速度に留意して日常的な会話を聴きとる訓練を行う。また、ヴィデオを使用して映画のシークエンスにおける会話の成立について学ぶ。いずれの方法においても、徹底した反復が重要視される。よく用いられるフレーズは暗唱することになろう。

平易な英文を読み、語彙をふやし、基本的な文法事項を修得することが、英語学習の妨げにならないことは言うまでもない。英語のロジックの展開の仕方を学び、少し努力すれば読める短い文章を利用し、理解できたという達成感を積み重ねてゆく。

【評価方法】

期末に行うテストの結果に、出席等の平常点を加えて評価する。

【授業科目名】 総合英語Ⅰ（教養科）	【担当者】藤田　久美子

【開講期】 1年前期・後期

【授業目標】

短いがおもしろい話を読みながら、英語の総合的な力を無理なく向上させることを目的とする。

【テキスト・参考書】

1）「Witty Tales」－Readings and Exercises－（L.A.Hill，安藤賢一編、成美堂）

2）「Pop Song Listening」（Kim R. Kanel編，成美堂）

授業計画

ウィットに富んだ物語を読み、その内容を英問英答で確認し、さらに、内容についてのテープでの質問に答えていく。文章自体は、語句も構文も比較的易しく、読みやすいものであるが、内容を正確に把握して、英語で答えていくのは、必ずしもそう易しいことではないと思う。この機会に、その面での実力を是非上げてほしい。

また、話に関連したdialogueを2人で練習するので、その際には積極的に参加してほしい。

本文は必ず家で読み、内容理解のための問題に答えてくること。

また、サブテキストとして、「Pop Song Listening」を使用する。テープで歌を聞き、歌の背景を考え、歌詞を聞き取る練習をする。15〜20分程度をこのテキストに当てるが、楽しく歌を聞き、また一緒に歌ってみたいと思う。

【評価方法】出席，授業態度（授業への貢献度），毎回の提出物（小テスト）を総合して評価する。

【授業科目名】 選択語学Ｉ－１Ｉ－２英語	【担当者】 ハベル、森田、清野 中島、後藤、田中
【開講期】 １年　前期　後期（海外語学研修：夏期集中）	

【授業目標】

オーラル・コミュニケーション、フィクション講読、ライティングのそれぞれの分野を中心に表現能力や読解力を高めることによって、また海外語学研修では、英語圏の文化に直接触れることによって、英語の全般的な能力を高め、英語圏の文化を理解する。

【テキスト・参考書】

開講時に指示

授　業　計　画

選択語学・英語は、オーラル・コミュニケーション、フィクション講読、ライティングの３分野に分かれて、それぞれ聞き話す力、読む力、書く力を高めようとするのが目的であるが、言うまでもなく、語学能力はこれら４つの力が相乗的に向上することによって力を発揮する。従ってどのクラスもそれぞれの分野に力点を置きながら、総合的な英語力を身につけられるように授業を展開する。英語圏の文化に直接触れることで文化理解の向上を目指す海外語学研修も開講される。

オーラル・コミュニケーション　　　　担当：ハベル清子、森田眞澄、清野茂子
聞き話す力を磨くことで、英語の理解と表現力を身につける。

フィクション講読　　　　担当：中島好伸、後藤玲子
小説を読むことで、語彙力を高め、英語の理解と表現力を身につける。

ライティング　　　　担当：後藤玲子、清野茂子
英語の構成を正しく知ることによって、日常会話も含めた表現力を身につける。

海外語学研修　　　　担当：田中安行
英語圏の文化に直接触れることによって、文化を理解し、英語運用能力を高める。（事前指導５回、夏期集中）

どの分野も出席を重視する。

【評価方法】

担当教員により開講時に提示

【授業科目名】 選択語学Ⅰ　　独語	【担当者】正路妙子
【開講期】　１年　　前後期	

【授業目標】

基礎的な文法をマスターし、ドイツ語を聞き、話し、読む力を養うことを目指す。

【テキスト・参考書】

Deutsch zum Hören und Sprechen―ドイツ語聞いてはなして―（白水社）

授　業　計　画

毎週　前半では、

１・文法の説明

２・練習問題（プリントを使用）

後半では、テープを使って

１・基礎的な会話のパターン練習

２・テープの内容がどの程度に理解できたかを確認する問題

のように扱う。

【評価方法】　毎週行なう文法確認テスト並びに定期試験と同様に、出席状況や、講義に臨む積極性を評価します。

【授業科目名】選択語学Ⅰ　仏語	【担当者】村山知恵
【開講期】 1年　前後期	
【授業目標】英語以外の新しい言葉をフランスの文化を学びながら、楽しく修得していきたいと思います。又、4年生大学への編入にも役に立つようにしたいと思います。	
【テキスト・参考書】Bienvenu en France ビデオ教材	

授業計画

1 発音練習、英語と同じアルファベットを使いながら、発音が大きく異なるフランス語の発音を練習します。

2 文法、英文法と変らないといいながらも、フランス語独得のものも多いのでその点を練習します。

3 文化　ビデオ教材を使うので、実際のフランスの映像と発音を学びながら、私達の国と違う文化に触れながら、少しでも世界を広く楽しく学んで欲しいと思います。
今年度も仏検に挑戦したり、実際にフランスに行ってみたいと思う学生さんが居りました。
フランスも決して良いところばかりではなく、日本と同じように様々な社会問題に苦しんでいます。
単なる憧れではなく、非常に私達に近いフランスを感じて頂けると嬉しいです。

【評価方法】試験

【授業科目名】スポーツA（バドミントンと卓球）	【担当者】松岡由紀子

【開講期】　1年　　前期

【授業目標】
・スポーツをすることによって、運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。
・運動技能と知識の習得及び態度の育成。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

技能練習とゲーム

〔バドミントン〕

1、グリップとシャトル慣れ
2、ストロークの練習
3、サービスの練習
4、集団技能の練習
5、ゲームとルール、審判法

〔卓球〕

1、ボール慣れ
2、素振りと正しいフットワーク
3、フォアトップ打ち、バックショート、ツッツキの練習
4、どのコースでも打てるようにする
5、正規のサービスが出せるようにする（変化サービスも）
6、各種打法の練習
7、ゲームとルール、審判法

【評価方法】

平常点とゲーム中に採点

【授業科目名】 スポーツA（テニス）	【担当者】岡田光弘

【開講期】 1 年　前期

【授業目標】

* サーヴィス．ストローク．ボレーという基礎的技術の修得
* タイブレーク・システムを含め．ゲームの進行法を理解すること

【テキスト・参考書】

『テニス教本』（社）日本プロテニス協会編

授　業　計　画

- ボレー　（フォアハンド，バックハンド）
- ストローク（　　：　　）
- サーヴィス

－時限ごとに目標を定めて進める．

- ミニゲームによる復習．
- 試合形式でのまとめ
（ルールについての指導を含む）

以上の手順ですすめていきます。

【評価方法】

授業毎の評価．レポート

【授業科目名】　スポーツA（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ）	【担当者】池森　隆虎
【開講期】　1年後期	

【授業目標】

6人制バレーボールをルールに則って楽しく行えるようになることを目標とする。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

基本動作の説明と技術練習
　（ｵｰﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞ・ｱﾝﾀﾞｰﾊﾝﾄﾞ　のﾚｼｰﾌﾞ及びｽﾊﾟｲｸ、ｻｰﾋﾞｽ）
ルール及び基本的作戦の説明と実践
　（ゲーム進行、得点、審判法、ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ）
ゲームの実践
　（リーグ戦）

【評価方法】

出席を重視、その他として参加態度、習熟度、技術度、等を加点対象として考慮する。

【授業科目名】　スポーツA（エアロビクス）	【担当者】　飯塚　真穂

【開講期】　1年後期

【授業目標】

　エアロビクスダンスの実践を通して、健康で美しい身体、積極的な行動を可能にする身体をつくる。また、基礎理論を理解し、自分でダンスプログラムが立てられることを目標とする。

【テキスト・参考書】

特に使わない。

授　業　計　画

前半：ストレッチ ----------- より大きな動きを可能にする身体作り

基本動作の練習 ------- 様々な応用が可能な基本的なステップを習得

ダンスプログラムの練習 ------- 短かめの曲に合わせたプログラムを覚える

後半：ダンスプログラムの作成と実演 ------- 前半の内容をもとに、各自で組み立てる

※必ず、運動しやすい服装に着替えて出席のこと。

【評価方法】

出席点＋平常点＋実技テスト

【授業科目名】 スポーツB（キャンプ）	【担当者】 村田　務

【開講期】 1 年 前 期 （ 夏 季 集 中 ）

【授業目標】

自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を養う。

・野外活動に必要な知識と技能及び判断能力
・健康的な「こころ」と「からだ」
・自然を親しみ愛好する態度と野外活動への参加意欲

【テキスト・参考書】

参考書　横山正幸、森本精造：教育キャンプ入門、北大路書房、1993年.
　　　　野外レク研究会：レクリエーションキャンプ 、成美堂、1990年.
　　　　小菅知三：キャンプ大全集、成美堂、1990年.

授　業　計　画

生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用したした野外活動は、健康の増進やレクリエーションとしての効果が極めて大である。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性をもっている。

そこで、授業では、特に、自然環境にふれ合うことの楽しさや喜びを十分に体験してもらうとともに、野外活動における適切な判断能力や将来に向けての意欲が得られるように留意して実施したい。

1、日　程　1996年 6月下旬、 7月下旬　事前活動（学内）
　　　　　7月30日(火)～ 8月 2日(金)　キャンプ実習（現地）
　　　　　8月 2日(金)　事後活動（学内）
2、場　所　学内及び「山のふるさと村キャンプ場」（東京都奥多摩町）
3、参加者　学生28名、教員3名
4、内　容　事前活動：運営組織・装備・食事等の計画・準備
　　　　　キャンプ実習
　　　　　　第１日目：テント設営、水遊び、食事
　　　　　　第２日目：登山（ハイキング）、食事
　　　　　　第３日目：ネイチャートレイル、木工、キャンプファイアー、食事
　　　　　　第４日目：食事、テント撤収
　　　　　事後活動：装備の点検・補修、反省評価
5、費　用　約10,000円（食料費、交通費等）

【評価方法】

平常試験（平常点、実技等）

【授業科目名】　健康科学	【担当者】　村田　　務

【開講期】　１年　前期

【授業目標】

人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な能力と態度を養う。

・今日の健康問題について
・健康の破壊と成立について
・健康の設計と処方について

【テキスト・参考書】

テキスト　村田　務他：エイズと健康、1996年.

参考書　　宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年.
　　　　　田中恒男：健康の生態学、大修館、1985年.

授　業　計　画

人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面や行動学的側面はもとより、環境的側面及び保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。

授業では、このような健康観に立って、疾病予防と健康増進の学問としての健康科学の知見や考え方について解説する。

１、健康科学の概念
２、今日の健康問題
３、疾病の疫学と健康の成立
４、主体と健康
５、環境と健康
６、保健医療体制と健康
７、保健行動と健康
８、健康問題Ⅰ（医学的、生物学視点から）
９、健康問題Ⅱ（心理学的、社会学的視点から）
１０、健康問題Ⅲ（行動科学的視点から）
１１、健康問題Ⅳ（保健医療体制、保健行政の視点から）
１２、健康生活の設計と処方

【評価方法】

定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）

【授業科目名】スポーツ科学	【担当者】岡田光弘

【開講期】　1年後期

【授業目標】

スポーツを科学的にみること，科学的な営みとしてみること

【~~テキスト~~・参考書】

『テニス教本』(社)日本プロテニス協会編　スキージャーナル
『スポーツ・トレーニング理論』村木征人著　ブックハウス・エイチディ
『わたしのバドミントン・ブック』阿部一佳・智子著　てらぺいあ　他

授　業　計　画

- トレーニング論
- 運動処方論
- バイオメカニクス
- 運動学
- スポーツ哲学
- スポーツ心理学
- スポーツ社会学

等の知見を平易に提示することをそれぞれの時間の目的とする。

映像資料を中心に素材を示し，分析した後，学生のレポートをもとめる。

【評価方法】

各授業ごとのレポート，Final レポート

専門教育科目（１年）

【授業科目名】 日本文学史（古代）　　**【担当者】** 久保木寿子

【開講期】 1年　後期

【授業目標】 当然ながら文学は人間の生活の中から生まれる。ある表現は歴史的な様々な要因（個人意識を含めて）の中で獲得されたものなのだ。文字の歴史・漢詩文の影響などを考慮に入れながら、和歌の修辞（レトリック）について理解し、長く日本の美意識を規定することになる王朝文学の理念と限界について考えてみる。

【テキスト・参考書】

配布プリント
参考書は最初の授業で紹介する。

授　業　計　画

用意した資料に基づき、作品の一部に触れながら、講義を進める。おおよそ以下の計画に従う。時間配分は必ずしもこの通りではない。

1、大和言葉（和語）と漢字　［古事記序文］
2、漢詩文の方法と和歌　［句題和歌］
3、心情表現と「物」の関係　［万葉集類歌と古今集仮名序・歌］
4、仮名文学の様々な動機
　個人歌集の成立　［伊勢集・とよかげ・好忠集・主殿集など］
　日記文学　［蜻蛉日記］
5、文学の理念
　<雅みやび>の世界　［源氏物語］
　<雅みやび>の相対化　［源氏物語と更級日記］
6、文学世界の拡大
　反<雅みやび>の世界　［今昔物語集］

個別の作品の多様性と独自性を指摘しながら、大きな流れとして、文学の立ち上がりから表現方法の開拓の過程を追い、日本の美意識の根幹を規定してしまう和歌の問題をクローズアップする。注意深く聴かれたい。

【評価方法】

記述式テスト、及び授業時の［マトメメモ］による。

【授業科目名】 日本文学史(近・現代)	【担当者】栗田廣美

【開講期】 1年後期

【授業目標】 日本近・現代文学の代表的な作家と作品を通して、その芸術史的展開を論じたい。僅か半年の講義ではあるが、せっかくの機会だ。お互いがんばって、明治後半から昭和初期までの見通しを獲得したい。

【テキスト・参考書】

教科書は使用しない。下記の作品を、当該講義の日までに必ず読んでおくこと。

授 業 計 画

○ 作品を読まずに「文学史」を論じたり受講したりすることは、食堂に入って実際に食べもせず、メニューだけ覚えて「味」を論じることと同じだ(むろん、メニューを覚えること自体の意味はあるのだが……)。

とにかく本講を受講する以上、「自分で読む」つもりが無ければ、マルデ話にならない。この半年で、少なくとも下記の作品は、必ず読むこと。できれば関連する他の作品(講義で紹介する)も、旺盛に読むことが必要である。

講義は、諸君が「読んだ」ことを前提にして進める。作品を分析し、その構造や魅力を考え、「作家」へと迫りたい。「芸術史的展開」は、その中からのみ見えてくる。下記「課題作品」は、講義で扱うものの中でも、とりわけ大切なものである。

○ [課題作品] ①泉鏡花『高野聖』、②島崎藤村『破戒』、③夏目漱石『それから』ないし『行人』(講義進展の中で決定する)、④谷崎潤一郎『刺青』および『春琴抄』、⑤白樺派の中から一作品(講義の進展具合によって指定する)、⑥プロレタリア文学ないしモダニズム文学の中から一作品(同)。……「課題作品」に関しては、当該講義の際にテーマを与え、十五分ほどで小レポートを書いてもらう。

○ 講義は時代を追って進めるが、内容は、何よりもまず、具体的な作品分析が中心になる。

【評価方法】 筆記試験(自筆ノート参照可)。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する、上記「小レポート」も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。

【授業科目名】 日本文学（中・近世）

【担当者】 東喜望

【開講期】 1 年　　前後期

【授業目標】

文学研究の基礎は作品研究にあるといわれている。この授業では、日本の中・近世の代表的な作品を精密に読み味わうことに主眼をおき、受講者がそれぞれの作品について、自らの作品論をうち立てられるように、作品分析や研究方法の基礎についてもふれていきたい。出席を重視する。

前期は、原本（瑳峨本）の影印本を用いて『方丈記』を講読し、後期は、近松の『心中天の網島』をとりあげる。

【テキスト・~~参考書~~】

前期「嵯峨本・方丈記」

後期「心中天の網島」

授　業　計　画

授業の概要は、以下のとおり。

I. 講義：文学研究の領域と方法

II. 文献学・書誌学概説

III. 原典講読

1. 方丈記（鴨長明）

序　安元の大火　治承の辻風　養和の飢渇

元暦の地震

むすび

2. 心中天の網島（近松門左衛門）

・浄瑠璃の概説と鑑賞

河内屋の段　紙屋内の段　道行

IV. 作品研究

【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 国語学	【担当者】吉田健二

【開講期】 1年　前期

【授業目標】

日本文学研究のための語学的基盤の獲得

基礎的資料とその利用価値について概略的知識を得てもらう

研究の語学的裏付けのために有用な研究成果・参考文献などを紹介する

【テキスト・参考書】

テキスト　福島邦道著　『国語学要論』　1973年、笠間書院：1200円

授　業　計　画

「国語学」はことばの仕組みを研究する「言語学」の一分野で、日本語が対象です
この分野の重要なトピックや、最近の研究成果などをなるべくやさしく解説します
補助ハンドアウトを毎回配布して、図表、グラフ、資料などをたくさん紹介する予定です
※以下の予定で進行します。テキストの対応ページを示すので、予習に利用して下さい

1 日本語史概略(p.164年表)／世界における日本語の位置(p.159～163)
2 文法の変遷と品詞：係り結びはいつまであったか(p.77～89)、
3 助詞と指示語の語用論：「は」と「が」と「こそあど」
4 日本語の語形の特徴：なぜ「濁音」はきたないか(p.103～106)
5 日本語の音声の特徴：外国人はなぜ「ん」「っ」が苦手か(p.14～22)
6 外来語と日本語：語彙システムと音声システムへの影響(p113～118)
7 平安時代の日本語音声：五十音図といろは(p.28～32)
8 室町時代の日本語：「キリシタン資料」から分かること(p.26～28、62～64)
9 意味のシステム：色名の概念(p.107～112)
10 語彙：ことばを計量する(p.96～102)
11 かなづかいの歴史：古典かなづかいはなぜ使われる？(p.59～62)
12 言語地理学：地図でことばの変化をみる(p.152～157)
13 予備日

【評価方法】

学期末の定期試験が８割／出席点が２割（割合は大体の目安）として評価します
原則通り、欠席が全授業数の1/3に達した場合、試験を受ける資格を与えないものとします

【授業科目名】　国語表現法	【担当者】丸尾 寿郎

【開講期】　1年　　前期

【授業目標】 対象を的確にとらえ、思ったまま感じたままをすなおに文章に綴ることや、身のまわりの事がらやできごとを詳しく説明したり順序よく伝えたり、または調べて知った事について自分の意見と他人の考えを区別して、筋道立てて述べたりできる文章表現力をしっかり身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】
　テキスト：使用しない
　参考書：岩淵 悦太郎編著「悪女」日本評論新社

授　業　計　画

文章を書くということは、全人格的な行為である。上手下手でもなく、技法でもない。あえて言えば、自他を励ます営みである。

国語表現法では、実際に文章を書き、書くことの実習の中で自己を育て自分の文体を作っていくことが中心となる。

また、各自の文章を皆で批正し合い、さらに推敲して稿を整えていくようにする。

【評価方法】
　平常点（出席、作品提出などを含めて、もろもろ。）

【授業科目名】 国語表現法	【担当者】久保木寿子

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

1、話すこと、書くことについて考え、日本語に対して自覚的に対処できるようにする。
2、実地に文章を書き、相互批判の中で、「よい文章」を理解する。
3、「よい文章」が書けるようにする。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。

授　業　計　画

・言語表現についての概説。

・身の回りにある様々な言葉に関する資料を持ち寄り、検討しながら自分たちの言語環境の現状について認識を深める。

・目的に合った文章を書いてみる。
相互批判・推敲を経て、よりよい文章が書けるようにしたい。
教員による、添削指導も行いたい。

【評価方法】

平常点（出席・提出物）による。

【授業科目名】 史学概論	【担当者】 西村 汎子
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	

【授業目標】

歴史学とはどういう学問か、歴史を学ぶ目的、歴史的なものの見方、考え方、歴史学の方法などについて学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキスト：加藤文三、西村汎子他著『日本歴史』（新日本出版社）

授 業 計 画

以下に記すように、まず「歴史学とは何か」を初めとする諸問題について学び、次いで人類社会の発展について、各段階ごとにどのような発展の仕方を示しているかについて考える。

1．歴史学とは何か、――高校までの歴史の勉強との違い

2．歴史学の方法

  1) 実証の重要性

  2) 事実と事実の有機的関連―作用・反作用・相互作用

3．歴史の必然性と偶然性について

4．社会の発展の仕方

  1) サルから人間へ――人類の発生

  2) 原始共同体社会

  3) 奴隷制社会への転換

  4) 発達した奴隷制社会

  5) 封建制社会の成立

  6) 封建制社会の前期と後期の特質

  7) 資本主義社会の成立

【評価方法】 平常レポートのほか、前・後期末にそれぞれテストを行う。テストに当たっては、あらかじめ数個の課題を提起し、その中から出題する予定である。

【授業科目名】 史料講読	【担当者】戸川点

【開講期】　1 年　　後期

【授業目標】　平安時代（おもに摂関・院政期）の史料を講読して、史料を正確に読む力をつけること、これが第一の目標です。

さらに、その史料からどのような情報が得られるかを考え、摂関・院政期の社会状況についても考えていきます。そして史料を正確に読み、分析し、史料に基づいて歴史を考えるという歴史学の方法を身につけていきたいと思います。

【テキスト・参考書】テキスト：授業時に配布します。主な内容は平安貴族の書いた日記や『栄華物語』のような歴史物語、『今昔物語』などの説話、『平安遺文』に収められている古文書などです。

参考文献：適宜授業時に紹介します。

授　業　計　画

この授業では平安時代の様々な種類の史料を読んでいきます。そして何をどうやって調べればいいのかという史料を読んでいくための技術、史料を正確に読む力を身につけていきたいと思います。その上で、摂関政治、院政という中世社会を形作っていく時代の社会の様子（政治の仕組み、地方の状況、貴族の生活）を考えていきます。

授業はゼミ形式で、毎回担当者を決めて報告してもらいます。担当者は史料を読んで解釈し、問題点、疑問点などを指摘する。その報告に即して問題点を参加者全員で考えていく、という形になります。その過程で史料に出てくることがらを調べるにはどうしたらいいか、関連文献はどうやって探すかなどのノウハウ、平安中後期の社会に関する解説などを行い、理解をより深めていきたいと思っています。

授業はおよそ次のような内容に即して史料を読んでいく予定です。

①平安時代史研究の動向
②平安貴族の日常・政務・儀式
③摂関・院政期の政治システム
④摂関・院政期の地方支配

【評価方法】 学年末にレポートを提出してもらうが、そのほか授業時に小テストも行う予定である。また、授業時の報告・授業への取り組み（出席状況、発言など）も加味する。

【授業科目名】 史料講読	【担当者】 西脇　康

【開講期】 1年後期

【授業目標】

活字化された近世史料の輪読を通じて、史料の解釈力をつけ、歴史事実の再構築の方法を学ぶ。

【テキスト・参考書】

（テキスト）西脇康編著『旗本三嶋政養日記』。なお輪読部分については各自に配布する。

（参考書）授業時に指示する。

授　業　計　画

幕末・維新期を生きた旗本の日記（『日録摘要』嘉永元～明治14年/1848～1881）を読みながら、幕末の旗本像、江戸の世相、戊辰戦争の動乱などについて具体像をつくりあげていく。とくに滅び去る幕府の側、ないし敗者の側から明治維新とは如何なるものに映り、如何に生きぬいていったかに迫りたい。

日記は大部におよぶため、ハイライト部分を適宜史料として配布する。

授業は最初1～2講、日記についての紹介および史料批判、読み方・調べ方についてコーチし、その後各自の分担を決め、輪読してもらう。

なお、意欲のある者には生の古文書の解読についても、サブ・ゼミで指導する用意がある。

【評価方法】

授業時の輪読と定期試験の総合評価。試験は自筆ノートと漢和辞典の持ち込みは許可する。

【授業科目名】 史料講読	【担当者】湯川郁子
【開講期】 1 年 後期	

【授業目標】

明治期のルポルタージュを史料として読み解くことを通じて、時代の雰囲気に触れながら、歴史事実に迫っていく方法を学びます。

【テキスト・参考書】

テキスト：横山源之助『日本の下層社会』(岩波文庫)

参考書：授業のなかで適宜紹介します。

授業計画

今年度は、横山源之助のルポルタージュ『日本の下層社会』をとりあげ、明治30年前後の労働者・貧民の生活の実状を探ります。

授業はゼミ形式で、レポーターによる担当範囲の内容紹介、問題点の指摘→討論により進めていきます。

『日本の下層社会』の構成：

第1編 東京貧民の状態
第2編 職人社会
第3編 手工業の現状
第4編 機械工場の労働者
第5編 小作人生活事情

第1編東京貧民の状態から読み始め、その後は、参加者との話しあいで決めたいと思います。

【評価方法】

レポートと平常点

〔授業科目名〕日本古代史（考古学を含む）

〔担当者〕関　和彦

〔開講期〕1年　　前期

〔授業目標〕

「発展」の歴史（便利化史観）を否定的媒介として今、歴史学で「何を学ぶか」を根底から考える目を育てる。

〔テキスト・参考書〕

参考書：『日本古代社会生活史の研究』校倉書房

授　業　計　画

自然・文明危機をむかえている今日、我々を取り巻く諸環境を見つめ直し、人間にとって川・海（水）、山・野（大地）、そして木・草・動物はいかなる存在であったのかを文化史的観点から問い掛けてみたい。具体的には我々の身の回りの日常的な「事」、「物」文化に目を向け、それとの関わりで古代社会における根源的水の文化・木の文化・雨の文化・雪の文化などを析出し、自然と人間社会が調和する文化とは何かを講義する。

講義内容予定

①「歴史を学ぶ」意義
② 古代人と大地・地名
③ 古代民衆と住環境
④ 古代世界における山と野
⑤ 古代民衆と森・神社
⑥ 古代社会と石・磐
⑦ 古代民衆生活と動物
⑧ 古代人と海
⑨ 古代人と川・井
⑩ 古代社会生活と雪

〔評価方法〕前期末のレポート、出欠を中心に評価する。

【授業科目名】 文化論	**【担当者】** 高橋秀雄

【開講期】 1年　後期

【授業目標】 文化とはCultureの訳語であり、その原義は耕すという意味である。古来から、人間は自然を耕すことによってさまざまの文化を創りあげ、それを伝承してきている。その軌跡を探りながら文化の特質を探求する。

【テキスト・参考書】
テキスト：使用しない
参考書：各種文化関係書（その都度指示する）

授　業　計　画

文化とは何かを命題にし、文化の基本から説き明かして芸術分野に高められてゆく過程に焦点をあて、その内容を把握するとともに、とくに東西文化の特質を比較することによって、文化に対する認識を深める。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1、文化とは何か
2、人類の発祥と文化の発生
3、火と水の文化
4、石と木の文化
5、狩猟と農耕と海洋の文化
6、ことばの文化
7、東洋文化と西洋文化
8、日本文化論

【評価方法】
1、期末のレポート
2、授業時の小レポート
3、授業時の平常点
} 左記3項による総合評価

【授業科目名】アジアと日本	【担当者】井上和枝

【開講期】 1年　前期

【授業目標】日本と朝鮮は古代以来非常に密接な関係がある。日本の文化と歴史に与えた朝鮮の影響も深く大きい。本授業では両国の関係を再考するため、具体的に各時代の人物を取り上げてその歴史的背景を探ろうと思う。 —特に近現代を中心に—

【テキスト・参考書】
朝鮮の歴史（新版）　三省堂

授　業　計　画

(1) 導入 朝鮮の風土と文化
(2) 東大寺大仏建立と国公麻呂(くにのきみまろ) — 渡来人と日本文化
(3) 日本の朱子学と李退渓
(4) 豊臣秀吉の朝鮮侵略と李参平 — 日本のやきものと朝鮮人陶工
(5) 東学農民戦争と全琫準
(6) 閔妃と日本
(7) 羅蕙錫と日本留学生
(8) 3・1独立運動と柳寛順
(9) 尹東柱と日本の皇民化政策
(10) 立原正秋と創氏改名

【評価方法】
授業中の集中度とレポート

【授業科目名】 日本経済論 【担当者】 高橋 美保

【開講期】 1年後期

【授業目標】

戦後日本の経済発展の５０年史をふりかえって、日本経済の現状と問題点についての知識と理解が得られるようにする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない
参考書 ：講義において紹介する

授 業 計 画

1. 戦後復興期：３大経済改革と経済復興の方法
2. 高度成長期：好景気の様相、成長要因、高度成長のもたらしたもの
3. 戦後国際通貨体制の崩壊と石油危機
4. 昭和５０年代の経済成長：具体的様相、財政政策、金融自由化
5. 昭和６０年代の経済成長：具体的様相、世界経済、バブルの発生と消滅
6. 戦後５０年の帰結：富裕化、脱社会化、地球環境の限界

【評価方法】

レポート

【授業科目名】 イギリス文学講読	【担当者】 田中　安行

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】

イギリス文学を理解するための代表的な考え方を表している作品を選んで、読みながら英語読解力を養うと同時に、作品の深い理解を通してイギリス的な発想やユーモア感覚を学ぶ。

【テキスト・参考書】

川口喬一「イギリス小説入門」研究社出版、1991年
20世紀作家の作品群

授　業　計　画

1. 比較的平易なイギリス文学作品を読みながら、英文学の基本的な考え方，思想について考える。
2. 作品購読を通して表面的な語句や意味の底に隠された意味を理解する方法を考える。
3. 後期には学生が自身が事前に研究をしたものを発表して積極的に参加し作り上げていく授業になるようにする。
   ＊20世紀作家の作品を中心に取りあげていく。

【評価方法】

平常点とレポート及び筆記試験で行う。

【授業科目名】 英米事情講読	【担当者】上原重一
【開講期】 1 年 前後期	
【授業目標】 現代の英米事情－－風俗、生活習慣、価値観、現代の社会問題など－－を講読を通して楽しく学び理解を深める。日本文化とも対比しながら、聴く・話す・書くにも力を入れて、総合的なコミュニケーション能力の向上も目指す。	
【テキスト・参考書】 テキスト：British and American Forum（トピックで見る英米文化事情） James House/Thomas Hardy著 （三修社） 参考書： 必要に応じて指示する	
授 業 計 画	
イメージ・トレーニングから始め、英文を読むテクニックを獲得していく。イギリスとアメリカの事情をさまざまな角度から読み比べながら、各エッセイについて理解を深める。日本の文化・伝統とも比較する活動によって、英語力だけでなく異文化理解とコミュニケーションの向上に役だつような内容にする。 1. Food & Drink 2. Politics and People 3. Regions 4. Families 5. At Home 6. Mass Media 7. Ethnicity & Race 8. Women & Society 9. Health 10. At Work & Play 11. The City 12. Social Class	
【評価方法】 定期試験の成績に、平常点（出欠、予習、質問、意見発表、課題提出など）を加味して評価する。	

【授業科目名】 英語表現 I	【担当者】 ｽﾜﾝ, ｳｨﾘｱﾑ ﾛｰﾚﾝｽ

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】

このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。

【テキスト・参考書】

ありません

授　業　計　画

いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキット作り、テープの聞き取りをする。

以下のような項目にそって進める。

1. friendly greetings
2. making choices
3. misplacing and looking for things
4. using things
5. talking about accidents

【評価方法】

成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。

【授業科目名】　英語表現 I	【担当者】　マーク　コフリン

【開講期】　1年前期　後期

【授業目標】　このカリキュラムでは、生徒に英語で話す機会を与え、又自信と語彙力を高めていき、日常生活で使えるような英語に取り組んでいく。

テキスト：Listen for It (1995 edition)

著者名：Jack C. Richards、Deborah Gordon and Andrew Harper

出版名：Oxford press.

定　価：¥1700

授　業　計　画

このクラスでは会話が中心であり、次のもので構成されている；配布物をペアになって練習する、オーディオとビデオを聴き、又クラスのテキストも使用する。
このコースは英会話が初級の生徒や、英語を話すことをこわがっている生徒の不安を和らげていく。このクラスでは英語が無気力にさせるものであると感じている人の積極的態度を助長させ、又自信をつけられるようになっている。
このクラスのペースと教材は、英会話初級の生徒に合わせたものである。

評　価：このコースの重要視している点が英語で自己を表現することにあることから、テストはすべて口頭で行われる。

必要条件：クラスに参加することと、出席することが必要。

【授業科目名】 イギリス史	【担当者】君塚直隆
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 議会制民主主義・近代的商工業は今や世界の多くの国々によって採り入れられ、我々日本人にとっても日常生活に欠かせないごく普通の現象となっています。これらを生み出した近代イギリスの歴史を捉えることは、今日の我々自身の姿を顧みる上でも極めて重要であると言えましょう。今年度は、一千年以上にわたる長い歴史の中で世界中に多大なる影響を残した近代イギリスの政治史を概観したいと思います。	
【テキスト・参考書】 今井 宏編『世界歴史体系 イギリス史2』山川出版社、1990年。 村岡健次・木畑洋一編『世界歴史大系 イギリス史3』山川出版社、1991年。 松浦高嶺『世界現代史18 イギリス現代史』山川出版社、1992年。	

授 業 計 画

一千年に及ぶ歴史をわずか14～15時間で検討することは物理的にも不可能ですので、主として18～20世紀の状況に注目しながら講義を進めていきます。但し、その前提として古代・中世・近世について最初の数時間で簡単に概観しておきます。テキストは用いませんが、上記の参考書を事前に読んで頂いておいたほうが講義にスムースに打ち解けられると思われます。講義項目は以下の通りとなっています。

1. イングランドの創成
2. テューダ朝の成立
3. 二つのイングランド革命
4. ハノーバ朝の成立
5. 二重革命の時代
6. 貴族政治と改革の時代
7. 二大政党制の確立
8. パクス・ブリタニカの時代
9. 帝国主義の時代
10. 第一次世界大戦前後のイギリス
11. 第二次世界大戦への道
12. 戦後のイギリス

【評価方法】

平常点（出席点）と学期末試験の結果に応じて評価を下します。

【授業科目名】　アメリカ史	【担当者】　木野　淳子

【開講期】　1年前期

【授業目標】
アメリカ史をより広義に捉え、アメリカ合衆国一国史ではなく、同じ北アメリカ大陸にある隣国との関係から捉える事によってアメリカ合衆国の抱える様々な問題を理解するために必要な基礎知識を見につける。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。参考書は必要に応じて授業の中で紹介する。

授　業　計　画

北アメリカ大陸はもともと様々な部族の先住民の土地で、アメリカ合衆国、カナダ及びメキシコの国境は後から入植した白人によって定められたものであり、三国の成立及びその後の発展は、複雑に絡み合っている。特に、共に旧英領植民地であり、長い国境を共有するアメリカとカナダの関係は重要である。また、　我が国にとって、政治・経済・文化的に大きな影響力を持っているアメリカをどのように捉え、また今後どのように付き合っていくかを考える上で、隣国カナダとの関係を知ることは大きな意味があると思われる。

そこでこの授業では、アメリカ独立革命、１８１２年戦争(英米戦争)、南北戦争といったアメリカ史上の大事件をカナダとの関係に照らすことによって、アメリカ史を別の角度から問い直したい。それと共に、人種・民族問題などに対する米加の対応の相違についても比較して、解説を加えていこうと考えている。

【評価方法】　①筆記試験
②授業時の感想文など(不定期)

【授業科目名】 日本美術史	【担当者】 山田磯夫

【開講期】　1年　後期

【授業目標】

古代から近世にかけての絵画の歴史を通観する。時代を写すといわれる絵画の歴史的背景を考察しながら、西洋画とは異なる日本画の特質について言及する。講義ではスライドを用いてなるべく多くの作品を鑑賞したい。

【テキスト・参考書】

参考書：辻惟雄監修『カラー版　日本美術史』美術出版社

授　業　計　画

日本の美術は中国・朝鮮半島から伝えられた美術作品を母胎に形制・発展してゆくが、絵画においても例外ではなかった。しかし、平安時代の半ば頃から徐々に和様化が進み、わが国独自のやまと絵も制作されるようになったのである。本講座では古代から近世に至るさまざまなジャンルの絵画作品を取り上げ、各時代の作品の理解につとめる。以下のテーマに沿って進める。

①はじめに—時代区分と絵画の見方
②玉虫厨子と天寿国繍帳
③法隆寺金堂壁画と高松塚古墳壁画
④鳥毛立女屛風と正倉院の絵画
⑤曼荼羅と白描図像
⑥仏画
⑦唐絵とやまと絵
⑧当麻曼荼羅と来迎図
⑨絵巻
⑩似絵と頂相
⑪歌仙絵
⑫水墨画
⑬初期洋風画と南蛮屛風

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】　言語学	【担当者】　望月　好恵

【開講期】　1年後期

【授業目標】

目標は二つ。まず、日常なにげなく使っていることばについて意識的に考えるきっかけを得ること、さらに、できるだけ多くの言語研究の実例に触れることを通して、言語学の基礎的な知識を身につけること。

【テキスト・参考書】

はじめての人の言語学　　上山あゆみ　　くろしお出版

授　業　計　画

授業では以下のような項目を扱う。各項目、1～2週で進める予定。

[1]　ことばの始まり
　ことばはいつ現れたのか。子供の言語獲得。動物の意志伝達と言語。
　言語の一般的特質。

[2]　音の構造・文字の発達
　音声学と音韻論。日本語の音の体系・他言語との比較。文字の発達。
　言語音と文字との対応（英語の音声と綴り字の関係）。

[3]　語の構造
　形態論。単語。形態素。語形成規則。日本語における語形成の特質。

[4]　文の構造
　統語論。文法的単位と文法範疇。統語構造。統語規則。
　日本語と他言語の統語構造の比較。

[5]　意味の構造
　意味論。語の意味。句と文の意味。

[6]　ことばの多様性と普遍性
　ことばの多様性の捉え方。言語類型論。普遍文法。

[7]　ことばの習得
　言語習得過程。言語習得の理論。

[8]　ことばと文化
　記号としてのことば。記号としての文化。文化におけることばと認識。

毎週、演習問題が課題として与えられる。

【評価方法】

期末試験、提出物、授業参加度によって総合的に評価する。

【授業科目名】 民俗学	【担当者】小林梅次
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 伝承資料の性格・特色、それに民俗学研究法を理解させ、民俗学の観点から身近な日常生活事象を取り上げ、なにげなく見過ごしていた部分に照明をあて、内省の学として観察力と思考力を育てたい。	
【テキスト・参考書】 参考書 牧田 茂「日本人の一生」講談社学術文庫 大島 暁他「図説民俗探訪事典」山川出版社	
授業計画	
ーーーーーーーー女性の民俗を中心にーーーーーーーーーー 1．研究法 伝承資料の特性と調査 文献資料等の特異性 2．主婦権と女性の地位 祭司権の変遷 近代化と男女の役割 3．日本の神 来訪神と斎場 4．民俗行事と女の役割 産育・婚姻・葬制 5．衣・食・住 民俗知識と知恵 6．民俗記録映像の上映	
【評価方法】 レポートによる。	

【授業科目名】 情報処理概論	【担当者】 宮武直樹
【開講期】 （①年前期 ・ ①年後期 ・ 2年前期 ・ 2年後期）	

【授業目標】 情報科学やコンピュータに関する知識および情報システムについての素養を身につけることを目標とする。
具体的には、講義と演習を2：1の割合で行う予定である。
講義は、情報科学に関する基礎知識、コンピュータの概要、情報社会とコミュニケーション、人工知能とシステム工学などについて、実例をあげながら解説する。演習では、実際にコンピュータに触れることで、情報科学をより一層理解してもらう。

【テキスト・参考書】
テキストは使用しない。（必要に応じてプリントを配布する。）
授業で指示する

授業計画

おおよそ以下の項目にそって進める。（1項目当たり5時間を予定）

＜前　期＞

（1） 情報科学の生い立ちと情報科学とは何かについて学び、情報の尺度であるエントロピーについても話したい。
また、人間は、数字や文字により情報を表現するが、コンピュータでは2進数が用いられていることや、論理回路と符号化についても触れたい。

（2） この演習では、一太郎というソフトを使って、日本語の文書作成を行う。とにかく、コンピュータを駆使しレポートの作成ができるようにしたい。

（3） コンピュータには、ハードウエアとソフトウエアがあること。ハードではコンピュータの歴史や構造について、ソフトでは計算手順を示すプログラム、アルゴリズムやコンピュータ言語について学習する。

＜後　期＞

（4） 表計算ソフトを用いて、表計算・グラフ・データベースなどの作成を、住所や図書管理など身近な実例を取り上げながら演習を行う。

（5） 人工知能の現状と情報化社会におけるコンピュータの応用について解説する。
ここでは、電子メールやマルチメディアについても触れる予定である。

（6） 近年、著しく関心を集めている知識情報処理に関して、ファジィ理論が話題になっている。これは人間のあいまいさを理論的に取り扱えるので興味深いものである。
ここでは、応用事例あげながら解説したい。

【評価方法】 ①レポート（前期）及び筆記試験（後期）
②授業時の課題（演習）

【授業科目名】 教養演習Ⅰ	【担当者】東喜望

【開講期】 1年 前後期

【授業目標】
○海洋文化圏の説話
大陸から見れば、日本はその対岸に浮かぶ島嶼群にすぎない。日本のよく知られている伝誦説話でも、その渕源をたどると広くアジアの各地に及んでいるものがある。そんな神話・伝説・昔話をとりあげ、歴史には記されなかった民族のルーツや文化の伝播についても考察を深めていきたい。手初めに下記をとりあげる。

【テキスト・参考書】

授業計画

ゼミナールはおよそ以下によって進める。

1. 課題の設定（アマテラス・スサノオ・桃太郎・炭焼長者など）
2. 課題の分担
3. 文献・映像等資料の収集
4. 資料の検討
   ・作品・古文書の場合は、輪読する。
5. 各課題ごとに報告し、討論する。
6. フイルドワーク（省略する場合あり）
7. 研究成果のまとめ

【評価方法】平常のゼミ活動（発表）とレポート（またはゼミ試験）。

【授業科目名】 教養演習Ⅰ	【担当者】久保木寿子
【開講期】 1年 前後期	

【授業目標】 『源氏物語』を研究する。大部な作品で、総体を理解するのは容易ではないが、一年次では、本来短編的な巻々として書かれたとも推定される第一部（桐壺巻～藤裏葉）に取り組む。物語に敷設された人間関係・権力構造の大要を理解することが第一目標である。そのなかで、紫のゆかり系統と玉鬘系統の並立構造に目を向け、この二重構造の意味について考えながら、六条院体制の完成までの道筋を辿ることにしたい。

【テキスト・参考書】

テキスト、参考書については、最初の授業で指示する。

授業計画

［前期］

最初は、物語成立の背景や梗概について、ビデオなどを用いながら説明する。（全く初めての人は、“あさきゆめみし”を手掛かりにするのもよい）。

次いで最も接近しやすい方法として、第一部に登場する人物の中の一人に注目し、その行動と心理を追う。系図上の位置、すなわち身分関係が決定的に重要なので、絶えず確かめながら進めたい。各自自由に調べて輪番に報告し、質問討議を重ねる。

［後期］

前期のゼミで、ばらばらに取り上げられた人物について、相互の関係をつけていく。そのために、「榊（賢木）」の巻を読んでいく。

繰り返すが、『源氏物語』の全体像をつかむのは簡単ではない。が、得るものは大きいはずである。各休暇ごとに課題を出し少しずつ積み重ねていくので、頑張ってついてきてほしい。

【評価方法】

定期試験時レポート・課題レポートによる。

【授業科目名】　教養演習I	【担当者】栗田廣美

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】　【日本近代文学を読む】　文学作品を素直に読み、自分内部にわき出るイメージを鮮明につかみ、このイメージにじっくりと向き合うこと。これが、文学研究の基礎だ。一年次は、「読む」ことの魅力に接し、「読む力」を強める事をめざす。諸君が、「好きで好きでたまらない」作家・作品にめぐりあうことを望みたい。

【テキスト・参考書】

教科書は用いない。最低、年間五十作品程度は読むことをめざしてほしい。

授　業　計　画

○　文学は芸術であり、芸術は何かのための手段ナドである前に、それ自体の「世界」（広大無辺のイメージ世界）をもっている。文学研究にとって何よりも大切なことは、この「イメージ・想像の世界」が好きであること、次にイメージをつかむ能力（感受性、イメージ力、アンテナ）を、徐々に鍛えることだ。

・　ところで「イメージをつかむ能力」は、自ら訓練すれば、必ず（絶対に必ず）誰でも、鍛えられるものだ。「読む」こと自体によって、「読む」鋭さは驚くほど発達する。そして、この事は、（少し慣れれば）面白くてたまらないはずだ。「文学」はもともと、「面白い」からこそ存続してきたのだから。

○　そのためには、先ず「量」なのだ。この「量」が土台になって、「読む」鋭さが増し、「イメージ世界」の魅力も一段と増す。……で、栗田ゼミに入る諸君は、最低、年間五十作品ほどをめざし、文学作品を「読みまくる」ことになる。

・　課題とする作品は、（基準となるリストは配布するが）一定の枠内で自由。日本近代文学を中心とするが、一年次の内は（希望があれば）外国文学も可。

○　ゼミでは、諸君は順番に、読んだ作品に関する発表をすることになる。最初の内はとまどうだろうが、自らつかんだイメージを言葉にすること、また、他の学生の、自分とは全く違う「読み」を知ることは、大切な刺激となるだろう。

・　前期の内は、僕が、諸君の発表をフォローする。後期は、一方では全員で同じ作品を読み、討論を軸とする本格的なゼミナールを開始するとともに、他方では、二年次の「卒業レポート」を視野に入れての個別指導を始める予定である。

・　年間何回か、レポートを書いて、自らの思考をまとめる訓練もする。

【評価方法】

平常点。特に「読もう」とする積極性を重視する。随時のレポートも加味する。

【授業科目名】 教養演習Ｉ「菅原道真の世界を探る」１	【担当者】高橋秀雄

【開講期】 １年　　前後期

【授業目標】 平安時代中期の学者であり、政治家であった菅原道真の世界を探ることによって、平安時代の政治や宗教の傾向を追求し、さらに、この世界が後世の江戸時代の文化に与えた影響を調べ、その文化的意義を把握させる。

【テキスト・参考書】
テキスト：浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」歌舞伎台本「菅原伝授手習鑑」
参考書：坂本太郎「菅原道真」ほか

授　業　計　画

平安時代の政治の中枢を成していた藤原氏の中にあって、右大臣にまで昇進しながら、藤原一門の策動のために太宰権師に左遷された菅原道真を探りながら、平安時代の社会を探り、また、死後は雷神の怨霊神となったり、天満宮に祀られて学問の神となる不思議な世界を考究し、さらに江戸時代の演劇である人形浄瑠璃や歌舞伎の代表的な人物となってゆく秘密をも調べ、平安時代の政治、経済、文化、江戸の文化までを総合的に把握する。

【評価方法】
1. 各期末のレポート
2. 演習時の小レポート
3. 演習時の平常点

左記3項による総合評価

【授業科目名】	教養演習I 「英米児童文学の旅」	【担当者】	田中　安行
【開講期】	1年前期・1年後期		
【授業目標】	英米児童文学は楽しく明るい中に若い人達にこれからの人生をどのように生きていくべきかを考えさせる傑作が多い。友だちや家族、愛や人間の生きる意味や、社会、自然、環境など様々な問題が純粋な形で取りあげられている。英米児童文学の歴史も学びながら各自で原作を選んでそれぞれの作品の楽しさや意義について研究していく。		
【テキスト・参考書】	定松正「英米児童文学の系譜」こびあん書房 神宮輝夫「現代イギリスの児童文学」理論社 小原信「ファンタジーの発想ーー心で読む5つの物語」新潮社 タウンゼンド「英米児童文学の歴史」岩波書店		

授　業　計　画

1. 初めに英文で作品を読みながら「子ども観」について考える。
2. 次に英米児童文学のあゆみを調べながら代表的な作品について考える。
3. 上記の過程で各自の研究対象となる作品を選び、原文を読み始める。
4. 原文の読みはきめ細かく行い、自分の感性と理解力によって問題点を発見していく。
5. 各自が発見した問題点を出し合って討論しながら、さまざまな角度から問題を深く追求　していく。
6. 2年生の卒業レポートへの準備としてノートテイキングの方法や参考文献の調べ方などにも慣れる。

【評価方法】

平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行う。

【授業科目名】　教養演習I	【担当者】富永静枝

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】

激動する現代社会にあって、女性を取り巻く社会状況や問題状況を正しく認識し、それらの問題を将来における自らの問題としてとらえ、問題解決への意欲をもてるようにしたい。

テキスト：布施晶子著『結婚と家族』岩波書店

参考書：雑誌『女性情報』教養科資料室および図書館に有ります。他の参考書は順次紹介します。

授　業　計　画

現代女性論ゼミ(1)

いま女性のライフサイクルは大きく変化し、女性の生き方も多様化しています。しかし、学校や家庭で男女差別を受けることの少なかった女子学生達も、一旦社会にでると様相は大きく変わって来ます。職場での男女差別は依然として存在するし、家族との関係によっても女性の生き方は大きく左右されます。女性が主体的に自己実現をはかりながら、自立して生きるにはどうすればよいのか・・・、女性としての望ましい生き方を模索するために、女性をめぐる社会状況の変化を正しく把握するとともに、各ライフステージごとにどのような問題があるのか、また家族や家庭のあり方や社会システムについて、日本だけではなく諸外国との比較も試みながら、21世紀に生きる男女のあり方や、望ましい社会システムについて考えていきます。

1年間のスケジュールは以下のように考えていますが、ゼミ員の興味や関心によって、相談しながら若干の変更を行うこともあります。

年間スケジュール

1、当初2~3回は個人又はグループに別れて、女性をめぐって最近どのような問題があるのかを雑誌『女性情報』を中心に調査を進めます。

2、ついでそれらの調査結果をもとに、ライフスタイル、女性と労働、家族・家庭、女性と社会保障、女子教育、男女平等をめぐる諸外国の動きなどにわけて、各人が最も関心を寄せた問題をとりあげ報告しあい、討論を重ねながら、女性問題の所在を明らかにします。

3、後期からは布施晶子著『結婚と家族』をテキストに学習を進めます。

【評価方法】

レポート及び平常点

【授業科目名】 教養演習Ⅰ	【担当者】 中島好伸

【開講期】 1年　前期　後期

【授業目標】

アメリカ黒人作家の短編と南部作家の短編を精読し、文学作品の読み方を学びながら、黒人小説と白人小説の比較を試みる。

【テキスト・参考書】

Modern Afro-American Writers（南雲堂）￥1,200
Southern Short Stories Today（南雲堂）￥1,300

授　業　計　画

黒人の短編と南部白人の短編を交互に読みながら、それぞれの特質を明らかにして比較検討してみたい。一人1ページを担当してもらい、語句と内容の説明、感想と問題点の指摘をしてもらう。時代背景の説明を織りまぜながら、ゼミ内で討論して、次の担当者へとバトンタッチ。1時間の内に３人くらい進む予定。また、1短編読み終えたところで、その都度レポートを書いてもらい、合評会を行う。ゼミ外では、１２の長編小説（翻訳可）を独自に読んでもらい、レポートにはそれを反映させる。この作業によって、レポートの書き方を身につけ、二年次の卒業レポートへの導入としたい。

【評価方法】

年数回にわたるレポートとゼミ内発表に出席、平常点を加味して評価する。

【授業科目名】　教養演習　Ｉ　「日本女性史」	【担当者】　西村　汎子

【開講期】　１年前期　・　１年後期

【授業目標】　日本女性史をテーマとする演習であるが、１年の前期は女性史研究の前提として、現代の女性問題ないし家族の問題を研究する事とする。それによって、漠然と女性史に向かうのでなく、問題意識を持って学ぶようにしたい。その後、日本の女性と家族の変遷についての基礎的な学習をする。

【テキスト・参考書】
テキスト：『無敵なＯＬになる法』（岩波ブックレット）
『日本女性の歴史ー性・愛・家族』（角川書店）
参考書　：『婦人労働の実情』（労働省婦人青少年局）ほか。

授　業　計　画

Ｉ．現代女性問題

戦後、女性の地位はいちじるしく向上したが、不況になればたちまち女子学生の就職が困難になるように、女性がその能力を活かして働くのは容易ではない。さらに結婚し子供を育てつつ働くのはなおのこと容易ではない。男女が協力し合って働き、健全な家庭を築いていく上で、現在、どんな問題があるのか、どんな解決法が考えられるのかを模索したい。

テキストを手がかりにしながら、問題点を出し合い、それぞれが問題を分担して調査報告を行い、それについて討論し合う方法で授業を進めていく。学生たちの反応によって異なるが、たとえば次のようなことについて話し合っていくことになろう。

１）恋愛と結婚・離婚
２）女性の職業について
３）賃金と労働条件
４）男女雇用機会均等法について
５）働くことと子育てとの両立
６）老後の問題　　その他。

II．日本女性史

１）原始古代
２）中世
３）近世
４）近代
５）現代

【評価方法】
平常点と期末のレポートによって評価する。

【授業科目名】　教養演習・日本近現代史（Ｉ）	【担当者】平賀明彦

【開講期】　１年前期・１年後期

【授業目標】
日本近現代史についての基本的な文献を輪読することにより、この時期についてのそれぞれのイメージを豊富化することをめざしていきたい。

【テキスト・参考書】
テキスト：ゼミの構成メンバーが確定した後、皆で相談して決める。

授　業　計　画

次のような形式で輪読を進めていく。
・何冊かの基本的な文献を皆が分担し、報告と討論を重ねながら読み進んでいく。
・ゼミ構成員は必ず何度か報告者としてレジュメをつくり報告する。
・報告者になった場合は、分担部分について参考文献等に当たり、さらに細かく調べ、報告に盛り込むとともに、質問に答えられるよう準備する。

【評価方法】
報告内容等により評価する

教　職　科　目

【授業科目名】　教育原理　（教養科）	【担当者】　黒　田　瑛

【開講期】　1年前期

【授業目標】

生涯学習社会としての今日における教育の在り方について考えさせ、そのような視点から教育の目的、内容、方法、制度にわたり、その原理を理解させることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：大浦　猛編『教育原理』（山文社）
参考書　：稲垣忠彦『戦後教育を考える』（岩波新書）
　　　　　その他随時紹介

授　業　計　画

わが国の教育の現状の検討と改革の方向についての考察を通し、教育の将来について学生が自分なりのしっかりとした視点をもって考える力を養いたいと願う。

講義の主な内容は以下の通り。

Ⅰ．「教育」の本来の意義・役割を考え、近代を中心として教育思想とその実践について話す。

Ⅱ．日本の教育の歴史（主として明治以降）、ことに第２次世界大戦後の歴史を概説し、教育基本法の成立とその思想を説明する。

Ⅲ．学校教育法、同施行規則等および学習指導要領をとり上げ、わが国の学校教育を規定する法令上の枠組みを理解させる。

Ⅳ．学校の教育活動について教育課程および学習指導と生活指導について話し、教師の働きと課題を考える。

Ⅴ．教育の場として学校教育と対比して家庭教育と社会教育の特徴を論じる。

【評価方法】

①　学期末の筆記試験　　②　レポート提出

【授業科目名】　教育心理	【担当者】　林　潔
【開講期】　1年後期	

【授業目標】
教育心理学概説

【テキスト・参考書】
テキスト：なし
図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。
澤田慶輔「学校教育心理学」，他

授　業　計　画

1. 心理学と教育心理学

2. 児童生徒の行動理解と発達心理学

3. パーソナリテイ論とそのアプローチ

4. 教授法について

5. 生徒指導の実際

【評価方法】
平常点，その他未定

【授業科目名】　道徳教育の研究	【担当者】　黒　田　瑛

【開講期】　1年後期

【授業目標】

道徳とは何かを考え、道徳を教えるとは何を目ざすのかを学ぶ。今日の学校における道徳教育の意味とあり方、そしてそれを実施する教育計画の実際についての理解を与えることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：大浦　猛編『望ましい性格の形成』（教職教養　教育学Ⅳ　山文社）
　　　　　文部省『中学校指導書　道徳編』（大蔵省印刷局）
参考書　：藤田昌士『道徳教育－その歴史・現状・課題－』（エイデル研究所）

授　業　計　画

学生がこれまで受けてきた家庭や学校における道徳教育の経験について感想や意見をきき、日常的に出会う道徳的葛藤などについても話合いながら授業をすすめたい。

主な学習内容を大別すると次の通り。

Ⅰ.道徳を教える、学ぶということを教科の学習の場合と比較して、その特性を明らかにする。「道徳」とは何かを論じ、道徳的主体性を養うことが教育の目標であることを説く。

Ⅱ.子どもの道徳性の育ちの視点から今日の社会の特徴を考え、無道徳から他律、そして自律へとすすむ子どもの道徳性の発達の姿を示す。

Ⅲ.学習指導要領により小・中学校における「道徳」の目標と内容を話し、これを実施するための学校における道徳教育の全体計画、「道徳」の時間の年間指導計画、そして「道徳」の時間の指導案の書き方と評価までを実例によって説明する。

Ⅳ.教科の授業、特別活動、生徒指導など学校における他の教育活動と道徳教育との関連を明らかにする。

【評価方法】

①　学期末に筆記試験　　②　レポートの提出　　③　授業への出席と参加

【授業科目名】　特別活動の研究	【担当者】　黒田　瑛

【開講期】　1年後期

【授業目標】

教育課程の中における特別活動の位置と、子どもたちの自主的、体験的活動としての特別活動が今日の教育においてもつ意義、およびその計画的実施について学習することを目標とする。

【テキスト・参考書】

- 大浦　猛編『望ましい性格の形成』（教職教養、教育学Ⅳ）山文社
- 文部省『中学校指導書　特別活動編』（大蔵省印刷局）

授　業　計　画

主な学習内容を大別すると次の通り。

Ⅰ．特別活動（教科外活動）の歴史、および特別活動の特質と目的

Ⅱ．現行の学習指導要領における特別活動の諸分野〔学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事〕とそれぞれの活動の特質、内容と指導上の留意事項

Ⅲ．特別活動実施の指導計画と評価

Ⅳ．特別活動と学校における他の教育活動（各教科、道徳等）との関連

【評価方法】

①　学期末に筆記試験　　②　授業への出席と参加

【授業科目名】　生徒指導の研究	【担当者】　小貫　栄

【開講期】　１年後期

【授業目標】
主として中学校における生徒指導の意義を知るとともに、その問題点をさぐる。さらにその対策を考察し、中学校教師としての取り組みを探求する。

【テキスト・参考書】
テキスト　①「生徒指導の手引き」（文部省）----- これを主とする。
②学習指導要領（中学校編）----- 文部省
③望ましい性格の形成（山文社）

授　業　計　画

〈序章〉教育･学校教育･中学校教育についての概観
①教育制度の変遷と現在の中学校の位置
②中学校における教育課程と生徒指導とのかかわり
（付「学習指導要領」の意義について）
③生徒指導の意義と課題
④青年期の心理と生徒指導
⑤生徒理解について
⑥教科･道徳･特別活動 ―― との関連について
⑦教育相談について
⑧進路指導について

〈終章〉よき教師像を求めて ―― （特に中学教師として）

【評価方法】
「レポート」に平常点を加味する。

【授業科目名】　国語科教育法	【担当者】丸尾 寿郎

【開講期】　1年　　後期

【授業目標】 国語科教育とはなにか。その本質と実際について研究し、中学校での学習指導や具体的な方法をさまざまに研究し、創造的で実践的な指導の力量を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：「中学校国語」教科書を使用する。

参考書：適宜、必要に応じて指示する。

授　業　計　画

国語を教えるということは、国語の教科書教材（詩や文章など）を教えることと同じなのか、ちがうのか。そうしたことがらから、国語教育の本質と内容を研究し、現在の国語科教育の問題点を検討整理してみる。そのうえに立って、「学習指導要領」を読んだり、中学校教科書の教材のいくつかを取り上げ、学習指導の理論と方法を研究する。教材の分析、解釈をはじめとして学習指導案づくりの研究など、具体的な指導方法への展開をはかり、中学校での国語教育の実践的な力量（わかるように教える）を身につけるようにする。

中学生はどんな先生を求めているか。学習について生徒が本当に求めているもの　―　学びたい、知りたい、わかりたい、できるようになりたいという切実な要求　―　に誠実に応える教師になる努力をするために、相互に発表し合ったり、指導案を検討し合ったりして、生徒理解とともに実際に役立つ教育方法を追求していきたい。

【評価方法】

レポートと平常点

【授業科目名】　教育実習	【担当者】栗田廣美

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】　二年次になって実際に中学校に行き、（狭義の）「教育実習」をするための準備的な科目が、この一年次の（学内における）「教育実習」という科目である。実り豊かな中学校での実習のために必要な、学習と訓練をめざしている。

【テキスト・参考書】

教科書は使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。

授　業　計　画

孔子・孟子の昔から、「教室」という「場」は、教師と生徒が作り出す生き物のような空間だったのだろう。この「場」は、日常性の中にありつつも、それを相対化する特殊な緊張を伴っている。時代状況がどう変化しようと、この本質は変わるまい。

中学校での教職をめざす諸君が、この「躍動する空間」を実際に体験し、その重みと魅力の中で、「教育」の一つの本質を学びとる貴重な機会が「教育実習」だが、本年度は、その準備として、次のような学習をすることになる。

① 「教育実習」に関する認識を深める。
- 小ゼミ（「教育実習」の意義と役割）
- 「授業」というものの研究
  （過去の実習生の研究授業ビデオを用いた検討を含む）
- 「授業以外の要素」の研究
  （過去の実習記録等を用いた検討を含む）

② 模擬「授業」実習
- 「教室」という生きた「場」を作り出すことの、困難さと魅力に、少しでも接近して行きたい。

【評価方法】

博物館科目

【授業科目名】 博物館学	【担当者】 柘植信行
【開講期】 1 年　　前後期	

【授業目標】

博物館は、私たちの生活や地域の文化にどのような関わりをもっているのでしょう。まず私たちのまわりある地域博物館に親しむことから出発して、博物館の基礎知識を学びます。

【テキスト・参考書】

テキスト ： 伊藤寿朗著『市民のなかの博物館』（吉川弘文館）

講義に必要な関連資料は、適時配付します。

授　業　計　画

近年の博物館ブームのなかで、各地に地域博物館、美術館、水族館などの開設が相次いでいます。生涯学習の展開という点からも、博物館の重要性が高まっています。ますます多様化する現在の博物館の現状を学ぶことから、博物館の歴史や理念、その仕事や学芸員の役割などについて考えていきます。

・生活のなかに博物館を！ まず博物館への理解を深め、博物館に親しみましょう。

・生涯学習の拠点としての博物館の可能性を追求しよう。

・主に地域博物館、歴史系博物館を中心に講義を進めます。

オリエンテーションー博物館とはなにかー

博物館の種類と分類

博物館いろいろー美術館・水族館・動物園……ー

地域博物館の現在

生涯学習と博物館の課題

博物館の法律

博物館を運営する。

博物館をつくるー構想から開館までー

展示とはなにかー常設展と特別展ー

博物館事業ー研究・教育活動ー

博物館とボランティア

博物館資料について。

レプリカの活用ー意義と作成方法ー

博物館と学芸員ー学芸員資格とその仕事ー

文化財保護・遺跡保存と博物館

野外博物館・遺跡庭園・エコミュージアム

平和・人権と博物館

（以上、主なテーマを列記しましたが、講義では前後する場合があります。）

【評価方法】

①レポート

②博物館見学発表と感想文

【授業科目名】 教育原理 （教養科）	【担当者】 黒 田 瑛

【開講期】 1年前期

【授業目標】

生涯学習社会としての今日における教育の在り方について考えさせ、そのような視点から教育の目的、内容、方法、制度にわたり、その原理を理解させることを目標とする。

【テキスト・参考書】
テキスト：大浦 猛編『教育原理』（山文社）
参考書 ：稲垣忠彦『戦後教育を考える』（岩波新書）
その他随時紹介

授 業 計 画

わが国の教育の現状の検討と改革の方向についての考察を通し、教育の将来について学生が自分なりのしっかりとした視点をもって考える力を養いたいと願う。

講義の主な内容は以下の通り。

Ⅰ．「教育」の本来の意義・役割を考え、近代を中心として教育思想とその実践について話す。

Ⅱ．日本の教育の歴史（主として明治以降）、ことに第２次世界大戦後の歴史を概説し、教育基本法の成立とその思想を説明する。

Ⅲ．学校教育法、同施行規則等および学習指導要領をとり上げ、わが国の学校教育を規定する法令上の枠組みを理解させる。

Ⅳ．学校の教育活動について教育課程および学習指導と生活指導について話し、教師の働きと課題を考える。

Ⅴ．教育の場として学校教育と対比して家庭教育と社会教育の特徴を論じる。

【評価方法】

① 学期末の筆記試験　　② レポート提出

【授業科目名】 社会教育概論	【担当者】藤田博
【開講期】 1年 後期	

【授業目標】
社会教育とは何かについて、生涯教育の構想との関係で、その本質を明らかにしたい。とくに、日本の社会教育がどのような歴史をたどってきたかに重点をおきながら社会教育の現状と課題を学習する。

【テキスト・参考書】
テキスト 使用しない。
・参考書 授業において指示する。

授 業 計 画

1. 社会教育とは何
   いろいろな考え方があることを通して、社会教育のあり方を理解する
2. 社会教育行政のあゆみ
   日本の社会教育行政の特徴と、国民の学習運動の流れを把握する。
3. 社会教育施設の概要
   公民館、図書館、博物館を中心に、現状と課題を明らかにする
4. 生涯学習政策の現状・生涯教育との関係を理解する
   おとなの学習の内容、方法を中心に。

【評価方法】
・レポート。
・課題図書についての感想文提出

【授業科目名】 視聴覚教育	【担当者】南利明

【開講期】　1年　後期

【授業目標】

博物館展示や図書館サービスに、視聴覚教材がどのように活用されているか。
その歴史と現状について考察する。

【テキスト・参考書】

なし

授　業　計　画

視聴覚教育についての理解を容易にするために、ビデオを多用、博物館見学等も取り入れて、授業をすすめる。
主な内容は下記の通り。

１．視聴覚教育史

２．視聴覚ライブラリーの歴史と現状

３．視聴覚教材は化学系と電気系を中心に説明する。
　化学系……写真・映画
　電気系……ラジオ・テレビ・ビデオ・ハイビジョン等

【評価方法】　レポート

【授業科目名】 博物館実習	【担当者】 上野　光子・髙橋　秀雄

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】

学芸員として実際の場に臨む場合に必要な心構えと、基礎となる知識・技術の修得を目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない。必要に応じてプリントを配付します。
参考書　：全国大学博物館学講座協議会関西部会『博物館学概説』ほか。

授　業　計　画

広範に渡る学芸員の仕事の中から人文科学系にしぼり、下記の項目にそって、講義1実習3を目安に授業を進めていく。見学によりなるべく多くの実例を学び、同時に作品に接する際の気構えやマナーも重視する。2年次には実際に博物館施設において実務実習を行います。

（1）オリエンテーション：博物館実習とは、授業計画、博物館法
（2）学芸員の仕事と現状、実習と図書、博物館の広報活動
（3）博物館施設の実際：国立博物館等の見学2回、事前事後講義、レポート提出
（4）資料作成
　・2次資料とは
　・拓本：タンポ・墨作り、屋外拓本
　・裏打：くいざき、作図方法
　・レプリカ作成
（5）展示と保管
　・展示環境
　・劣化と保存科学
　・展示施設と方法
　・カタログ、作品解説
（6）梱包と運搬
（7）美術工芸品の取り扱い方と種類・技法
　掛軸、巻子、折本、冊子、屏風、面、金工品、漆芸品、陶磁器、彫刻、茶道具等
（8）写真の基礎知識

【評価方法】

(1)レポート、(2)作品、(3)平常点、(4)出席数、(5)館務実習評価、の総合点。

司 書 科 目

【授業科目名】 図書館通論	【担当者】金中利和

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

図書館は、図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存して、奉仕対象者の利用に供し、その調査研究、教養、レクリエーションなどに資することを目的とする施設である。

この授業では、図書館学課程の諸科目の基礎となる図書館の本質的な機能、活動を明らかにする。

【テキスト・参考書】

テ キ ス ト：中村初雄［ほか］ 図書館通論 改訂版 樹村房 1988
参 考 書：高山正也［ほか］ 図書館概論 雄山閣 1992

授 業 計 画

第 1週	図書館の意義と機能
第 2週	図書館の種類
第3 ～ 6週	図書館の歴史と現況 1 国立図書館 2 公共図書館 3 大学図書館 4 学校図書館 5 専門図書館 6 図書館の類縁機関
第7 ～ 9週	図書館の業務
第10, 11週	図書館政策・行政・法令
第12週	図書館協力とネットワーク
第13週	図書館員

【評価方法】

授業への出席状況、テストによって評価する。

【授業科目名】 図書館資料論	【担当者】金中利和

【開講期】 1 年　　後期

【授業目標】

図書館サービスの成否は、図書館の蔵書構成の良否に深く関わる。

この授業では、印刷資料（図書、新聞、雑誌など）、マイクロ資料、視聴覚資料（ﾚｺｰﾄﾞ、録音ﾃｰﾌﾟ、ﾋﾞﾃﾞｵﾃｰﾌﾟなど）、ニューメディア（CD-ROM、磁気ﾃｰﾌﾟ など）等、多様な図書館資料についてその特性を明らかにするとともに、蔵書構築の理論と方法、およびそれに関わる問題について論じる。

【テキスト・参考書】

テキスト：古賀節子［ほか］　図書館資料論　改訂版　樹村房
参考書：図書館情報学ハンドブック　丸善　1988

授業計画

第1 ～ 3週　　図書館資料の概念
1 図書館資料の意義
2 図書館資料の種類と特性

第4， 5週　　出版流通機構
1 商業出版と非商業出版
2 資料の流通

第6 ～ 9週　　蔵書構築の理論と方法
1 図書館資料と蔵書構築
2 資料の収集方針
3 文献調査と出版情報
4 資料の評価と選択
5 資料収集と図書館協力
6 資料の収集、受入、除籍

第10， 11週　　知的自由と蔵書構成
1 蔵書構成の中立性
2 知的財産権、特に著作権

第12， 13週　　記録媒体の多様化と図書館資料の将来
1 電子出版、ニューメディア
2 資料のメディア変換
3 図書館資料の保存

【評価方法】

授業への出席状況、テストによって評価する。

【授業科目名】　資料分類法･資料分類法演習	【担当者】　椎葉 敝子

【開講期】　1年後期

【授業目標】

図書館では、本を主題（テーマ）別に分類して、利用者に提供している。まず、その分類法を学ぶ。次いで、「コトバ」で資料を探せる件名法を学ぶ。この探索技術を駆使して、レポートや発表の際に必要な本や文献を探せるようにしたい。

【テキスト・参考】テキスト：木原通夫ほか著「資料組織法　第Ⅱ版　補訂版（1995年刊行）」及び
木原通夫ほか著「資料組織法・別冊　演習問題集　緑版」第一法規
（　上記の２冊は資料目録法・同演習でも使用する）
参考書：必要時に示す

授　業　計　画

図書館の資料を利用に提供したり、文化遺産として維持・保存するための処理を組織法という。その組織法は分類法と目録法から成り立っている。
分類法では日本の多数の図書館で採用している日本十進分類法（ＮＤＣ）を中心に学んでゆく。また、現在はコンピュータ目録が普及しつつあり主題（テーマ）検索が新しい局面に直面している。これに関して件名目録法を基本として言及する。
図書館学は実学である。演習では講義で聴いたことを、演習問題や本を対象に実際に行って理解を深めて行きたい。従って簡単な課題を幾度か行うことになるだろう。

講義・演習で扱う主な項目
主題目録法
「分類」と「図書の分類」
図書分類表・分類記号
主要分類法
日本十進分類法（ＮＤＣ）
　構成（体系）
　助記法
　相関索引
分類作業
　主題分析
　分類規程
　図書記号法
件名目録法
　主要件名標目表
　基本件名標目表（ＢＳＨ）

【評価方法】

簡単な筆記試験、課題提出を採点の対象にして、出席状況を考慮する。

【授業科目名】　図　書　館　活　動	【担当者】　西村　汎子

【開講期】　1年前期

【授業目標】　図書館活動とは、図書館がその利用者に各種の便宜を供与するための行為活動）のことである。図書館が行う活動は、資料の収集・組織化・提供など多岐にわたっているが、利用者と直接関係する部門すなわち利用者に必要なサービスを生み出す活動内容と、その問題点や課題を取り扱う。

【テキスト・参考書】

参考書：服部金太郎・北原圀彦他著『図書館活動』（樹村房　図書館学シリーズ⑥）その他。

授　業　計　画

今日では印刷物以外の、フィルム、テープ、ディスクなどの新しいメディアが発達し、図書館の機械化も可能になった。また、外部データベースが増加し、それらへのアクセスがコンピュータと通信手段の利用によって迅速に行えるようになった。情報化の新時代を迎えて、各地の図書館もニューメディアを取り入れて急速に変容しつつある。従来から考えられてきた活動に加えて、新時代の図書館活動はいかにあるべきかが問われているといえよう。授業の順序は次のように進められる。

多少変更することも考えられる。また、図書館を実際に訪れて、その実情を見学することも考えている。

1．図書館活動とはなにか
2．図書館活動の課題
3．日本における図書館活動の変遷
4．館外利用のためのサービス
5．館内利用のためのサービス
6．その他のサービス
7．図書館間の相互協力
8．図書館の種類と役割－学校図書館・公共図書館・大学図書館・国立国会図書館
9．これからの図書館と図書館職員

【評価方法】

期末のレポートによる。

【授業科目名】青少年の読書と資料	【担当者】東喜望
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】人間の「読む」という言語行為の意味を問いつつ、自己形成の最も重要な時期である青少期における読書の意義や、その方法・文献の選択の仕方などを、読書指導の立場から概論的に講義する。	
【テキスト・参考書】講義資料を配布する。 適宜、参考書を指示する。	

授　業　計　画

講義内容は、およそ以下のとおり。

1、ことばと思考

2、人間の言語活動

3、「読む」ことの意義

4、青少年期の特性

5、青少年期の読書とその方法

6、読書指導と選書

【評価方法】筆記試験

【授業科目名】　情報管理	【担当者】　倉澤寿之

【開講期】　１年集中

【授業目標】

情報検索の手法および文献検索の方法を理解するとともに、最近特に重要度を増しているパーソナルコンピュータとネットワークの利用についても知識を得ることをめざす。

【テキスト・参考書】

特に指定しない。

授　業　計　画

1．情報検索の基本的な考え方

2．情報の抽出(索引法を中心に)
　概念の抽出
　索引項目の構造
　見出し語の選定
　シソーラスの意義と活用

3．情報の検索(データベースを中心に)
　「データベース」とは
　コンピュータとデータベース
　ネットワークとデータベース

【評価方法】

索引作成(見出し語抽出)課題をレポートとして課し、その良否により成績を評価する。

【授業科目名】 社会教育（社会教育概論）	【担当者】藤田博
【開講期】 1 年　　後期	

【授業目標】

社会教育とは何かについて、生涯教育の構想との関係で、その本質を明らかにしたい。とくに、日本の社会教育がどのような歴史をたどってきたかに重点をおきながら社会教育の現状と課題を学習する。

【テキスト・参考書】

テキスト 使用しない。
参考書 授業において指示する。

授　業　計　画

1. 社会教育とは何
   いろいろな考え方があることを通して社会教育のあり方を理解する
2. 社会教育行政のあゆみ
   日本の社会教育行政の特徴と国民の学習運動の流れを把握する。
3. 社会教育施設の概要
   公民館、図書館、博物館を中心に現状と課題を明らかにする
4. 生涯学習政策の現状・生涯教育との関係を理解する
   おとなの学習の内容、方法を中心に。

【評価方法】

・レポート。
・課題図書についての感想文提出

【授業科目名】 視聴覚教育	【担当者】南利明

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

博物館展示や図書館サービスに、視聴覚教材がどのように活用されているか。
その歴史と現状について考察する。

【テキスト・参考書】

なし

授 業 計 画

視聴覚教育についての理解を容易にするために、ビデオを多用、博物館見学等も取り入れて、授業をすすめる。
主な内容は下記の通り。

1．視聴覚教育史

2．視聴覚ライブラリーの歴史と現状

3．視聴覚教材は化学系と電気系を中心に説明する。
　化学系……写真・映画
　電気系……ラジオ・テレビ・ビデオ・ハイビジョン等

【評価方法】 レポート

教養教育科目（２年）

【授業科目名】 人間	【担当者】吉川・浅井・村田・富永

【開講期】 2 年前期　後期

【授業目標】

「環境を考える」という統一テーマで、4名の教員がそれぞれの専門的立場から、環境問題をとりあげる。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。参考書は授業の中で各教員によって指示される。

授　業　計　画

Ⅰ 宇宙船地球号の環境を考える
　1．主体と環境－ゾウの環境ネズミの環境
　　エコロジーの意味するところ
　2．大気の環境
　　二酸化炭素・オゾン層
　3．水の環境
　　ミネラルウォーターと天然水　酸性雨・富栄養化・水汚染
　4．緑の環境
　　樹木のライフサイクル　森林と砂漠化
　5．生物ー環境モニタリング
　　生物の多様性と種の保全
（6．）地球環境と人類
　　持続可能な消費は可能か　Reduce・Recycle・Reuse
Ⅱ 教育環境を考える（子どもをとりまく環境 ）
　1．世界の子どもの生活環境
　　ユニセフ「世界子供白書」から（困難な条件の中で生活する子どもたち）
　2．子育て環境としての家族の現在
　　家族の養育機能について（子育て不安 子供の虐待 子育てと家族）
　3．学びの環境としての学校の現在
　　学校とは（いま学びの楽しさ 出会いの楽しさは？ ）
　4．遊び環境の変容
　　アナーキースペースとしての遊び環境
　　遊びと子どもの人格形成
　5．メディア環境と子どものセクシュアリティ
　　メディアの有害性とはなにを意味するのか
　　メディアが子どものセクシュアリティに与える影響
Ⅲ 環境と健康
　1．温熱環境への生体反応 （・ホメオスタシス ・調節と適応、順化）
　2．暑さの健康科学 （・暑さに対する体温調節 ・熱中症 ・暑い地方の人々）
　3．寒さの健康科学 （・寒さに対する体温調節 ・凍死 ・寒い地方の人々）
　4．暑さ寒さと日本人 （・耐暑性 ・耐寒性 ・男女差）
　5．至適温度への働きかけ （・暑さ、寒さへの対応 ・健康と冷暖房 ・）
Ⅳ 戦後５０年、日本経済の発展と家族・家庭生活の変化
　1．戦後における日本経済の発展過程
　2．戦後５０年における家族・家庭生活の変化
　3．現代勤労者家族の経済生活をめぐる諸問題

【評価方法】

試験の時期と評価方法は担当教員によって異なり、授業時間に担当者によって指示される。

【授業科目名】 総合英語Ⅱ（教養科）	【担当者】大佛 義信
【開講期】 ２年前期・後期	

【授業目標】 政治、経済、社会、文化、スポーツ各分野にわたる時事問題への興味、関心を喚起し、英語習得の分野をひろげる。特に情勢の本質の把握を重視したい。
① 英字新聞の記事の情報がつかめる。 ② 復習によって記事の内容を聞いて理解できる。 ③ 内容について簡単な英語の設問に答えることができる。 ④ 語彙をふやす。
⑤ 英文の構造を正確に理解して、応用力をつける。

【テキスト・参考書】

安田 哲夫 ・ 松田 徳一郎 編著

"Current English - 1966/97 edition" 成美堂

授 業 計 画

次の指導項目を順次授業計画に組むものとする。

1. 時事英語も英語の力で読むもので、特別の英語力を必要とするものではないが、いくつかの新聞英語の語法ときまりを知っておくことが便利である。導入としてそのことに触れる。
2. 英字新聞の紙面構成と記事の構成を考える。
3. 現在の視点から過去１年間の重要ニュースを見出しとリードでたどり、概括する。
4. テキストの順序で社会生活、文化、政治、経済、科学、スポーツ、家庭生活の各分野を扱う。
5. 社説を読み、構成と内容を考える。
6. 時事問題を考えながら、現代の自然と人間社会の課題をつかむことができればと願っている。

（１回の授業の大体の構成）

１週のハイライト － 英字新聞またはニュース放送から。

テキストの記事の事実と情報を平易な英語で導入。

英文構造の正確な把握のための訳読。

復習として内容のリスニング点検。

テキストの英語の設問に答える。

基本的な英語表現と語彙をふやすための簡単なoral composition。

【評価方法】

試験を中心に、課題、授業中の発表、出席状況を加える。

【授業科目名】　総合英語Ⅱ（教養科）　【担当者】須藤 彩子

【開講期】　２年前期・後期

【授業目標】

この授業の目標は、読解の訓練を通じて英語の基礎力を磨きながら、同時に、視聴覚教材を使って運用練習をおこない、総合的な英語の運用能力を身につけることである。

【テキスト・参考書】

（読解）Adrian & Irene Waller　著　Good Stories for the Japanese Classroom (Macmillan Language House)

（視聴覚総合教材）Paul McLean 編　Survival English--The Sounds of New York (1)（朝日出版社）

授　業　計　画

授業予定（前期）

Good Stories　１－９章と１１－１４章（日本に関するエッセイですが、文化論としてではなくむしろ個人的ないわゆる文学的「随筆」として読んだほうがずっと楽しいでしょう。授業一回につき一章すすみます。）

Survival English　１－４課　（授業三回につき一課すすみます。音声関連の練習をするほか、地図などを読んだり、それぞれの課の最初にでている説明文を読んだりしてアメリカ通になりましょう。皆さんはニューヨークでサバイバルできるでしょうか?）

(テキストの項目　1　とにかく、聞かなくては－－ホテルの予約で一苦労　2　タクシーをつかまえようか－－やっぱりバスにしよう　3　泊めてください－－テレビがみたいのに　4　おなかがすいた－－なんとか食事をたのもう)

後期の予定は後期授業開始時に配ります。Survival Englishの一巻だけでは物足りないようでしたら、後期途中から二巻目を使うことも考えています。また、随時参考・補充の意味でプリントを配ります。

宿題として、毎回、授業開始時にGood Storiesの問題の答えを提出してもらいます（採点します。また、遅れたものは受け取らないので注意すること）。

前期には授業開始時の小テストを３～５回程度予定しています。前期最後の小テストは最終日に実施し、高めの配点とします。遅刻、欠席の場合も、追試験はいっさいしないので、必ず当日にうけること。

授業時間内にできるだけ力をつけることを目標とした授業なので、積極的に参加すること。つまり、積極的に発言したり、課題に取り組んだりすること。音読の練習も大きな声で！積極性もコミュニケーション能力のひとつです。

【評価方法】

小テスト＋宿題（採点）、出席、授業参加度を総合的に評価する。（特に注意を促したいのは、どんな理由であっても、遅刻、欠席の場合は総合点が回数に応じて減点されるということである。なかでも無断欠席の場合と回数が多い場合は大きく減点されるので注意）

【授業科目名】　総合英語Ⅱ（教養科）	【担当者】長尾 主税

【開講期】　２年前期・後期

【授業目標】

平易な英文の読解を中心に、基本的な英語運用能力の向上を目標とする。

【テキスト・参考書】

開講時に指示する。

授　業　計　画

平明な英語で書かれた小説を読む。

異国の文化的背景を知り、そこに描かれた問題が自国のものと実際に共通するものなのかどうか考察するだけでも、得るものは大きいと考えられる。たとえば、英語のロジックの展開の仕方を学べば、小説でさえも情緒をしのぐほどに論理がこれを支えていることがわかるだろう。また、平易な英文を読み、語彙をふやし、基本的な文法事項を修得することが、英語学習の妨げにならないことは言うまでもない。テクストに関連する映画を鑑賞し、さらに理解の助けとする予定である。

【評価方法】

レポートの評定に、出席等の平常点を加えて評価する。

【授業科目名】　総合英語Ⅱ（教養科）	【担当者】藤田 久美子
【開講期】　２年前期・後期	

【授業目標】
様々な場面に応じた会話の聞き取りを行ないながら、書く力、話す力も同時に一段進歩するようにしたい。一方で速読も練習する。だんだんに速く、しかも正確に、内容が理解できるようになってほしい。

【テキスト・参考書】
1) Start Listening! (Paul Mclean著 金星堂)
2) Speed Reading in Action (Gary Cantor 他編 桐原書店)

授　業　計　画

。聞き取りについて … テキストを使って、ごく日常的な場面での会話を聞き、これを理解し、関連した質問に答えていく練習をする。また、それぞれの場面で使われている表現を使って、友達と会話練習をする。書き取りも行なう。

。速読について … 新聞や雑誌を読む時には、ある程度速く読め、しかも正確に内容を理解できなくてはならない。このクラスでは、その前段階として、英字新聞からの記事を少し易しくrewriteしたものを使って練習していく。記事は様々の分野から選ばれており、どれも興味深いものばかりだと思うので、この機会に速読の実力をつけるよう努力してほしいし、又、必ず実力は上がると確信する。

【評価方法】出席状態、授業態度（授業への貢献度）、平常の小テストの成績を総合して評価する。

【授業科目名】 選択語学Ⅱ－１ Ⅱ－２英語	【担当者】清野、森田、後藤 長尾、藤田
【開講期】 ２年　前期　後期	

【授業目標】
　オーラル・コミュニケーション、フィクション講読、ライティングのそれぞれの分野を中心に表現能力や読解力を高めることによって、英語全般の力量向上をめざす。

【テキスト・参考書】

開講時に指示

授　　業　　計　　画

選択語学・英語は、オーラル・コミュニケーション、フィクション講読、ライティングの３分野に分かれて、それぞれ聞き話す力、読む力、書く力を高めようとするのが目的であるが、言うまでもなく、語学能力はこれら４つの力が相乗的に向上することによって力を発揮する。従ってどのクラスもそれぞれの分野に力点を置きながら、総合的な英語力を身につけられるように授業を展開する。

オーラル・コミュニケーション　　担当：清野茂子、森田眞澄、後藤玲子
　聞き話す力を磨くことで、英語の理解と表現力を身につける。

フィクション講読　　担当：長尾主税
　小説を読むことで、語彙力を高め、英語の理解と表現力を身につける。

ライティング　　担当：藤田久美子
　英語の構成を正しく知ることによって、日常会話も含めた表現力を身につける。

【評価方法】

担当教員により開講時に提示

【授業科目名】 選択語学Ⅱ　　独語	**【担当者】** 正路妙子
【開講期】　2 年　　前後期	

【授業目標】

楽しみながら読み進めるような簡単な読み物に触れながら、語彙をふやすことを目指す。

【テキスト・参考書】

Der Fall Draeger—新・ドレーガー失踪事件—（第三書房）

授　業　計　画

一年次にやり残した文法事項を終了したうえで、テキストに入っていく。各課は、二ページから成りたっていて、会話文が多く、文法の復習問題も付いている。その気になれば、読解力の充実を図りながら、自分の考えを表現する力を養うことができる。

毎回、前もって予習してから授業に臨んで欲しい。

【評価方法】

定期試験のほか、出席状況や受講態度も評価します。

【授業科目名】 選択語学Ⅱ　　仏語	【担当者】村山知恵
【開講期】　2 年　　前後期	
【授業目標】 1年にフランス語の基礎を学んだものが、さらにフランスの文化、文学、歴史に触れながら、フランスの作家の書いたものを読めるようにしたいと思います。	
【テキスト・参考書】 "Le petit prince" Collection folio junior	

授　業　計　画

「星の王子様」で日本でも有名になった童話を原文で読むことで、フランス語をさらに深めたいと思います。
毎年のようにこの本を読むのですが、この童話に対する皆さんの憧れが強いことも確かです。しかし、この童話は実は第二次大戦中に書かれたという歴史的な意味もあり、「人間の一番大切なものは何か」という作者 Antoine de Saint-Exupéry の哲学の書ともいえるもので、子供のためにというよりは、私達大人が読み理解したい作品です。
フランス語は決して難しくありませんが、その哲学を読み取りながら読み進むには、フランス語以外の文化や歴史的背景と私達の現代を考えて読む必要があると思います。
辞書をひきながら、そんなところまで理解できたらと思います。

【評価方法】 レポート.

専門教育科目（２年）

【授業科目名】 日本文学史（中・近世）	【担当者】東喜望

【開講期】 2年 後期

【授業目標】 古代の文学を継承しつつ中世において新たに勃興・発展した文学はどのようなものであったか、そして中世文芸を克服しつつ近世において創造された文学はどのような特質を持っていたか、これらの問いを軸として考察をすすめ封建制化の文学の展開を跡づける。

主に軍記と和歌、小説と俳諧をとりあげる。

【テキスト・~~参考書~~】 講義資料を配布する。

授　業　計　画

以下の項目にそって講義する。

I. 中世の文学
1. 中世の特質
2. 中世文学の一般的傾向
3. 中世の散文文学 ── 軍記物語の成立と展開
4. 中世の韻文文学 ── 中世和歌の展開と衰微

II. 近世の文学
1. 近世の特質
2. 近世文学の一般的方法
3. 近世の散文文学 ── 近世小説の成立と展開
4. 近世の韻文文学 ── 俳諧の発展

【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験

【授業科目名】 日本文学(古代)　**【担当者】** 久保木寿子

【開講期】 2 年　前期

【授業目標】 韻文作品の中から、三代集の一つ『後撰集』を取り上げ、これと表裏の関係を成す先行『古今集』と対比しながら、表現方法、和歌観、撰集理念の違いなどについて理解を深める。日本の古典の原点に当たるものの性格を確認することになろう。

【テキスト・参考書】

配布プリント
参考書は最初の授業で紹介する。

授　業　計　画

10世紀中葉に成立した『後撰集』は、磨き抜かれた言語による『古今集』の典雅な世界に対し、卑近な日常の歌による褻(け)の世界を展開する。

・授業はまず、『古今集』の概要を捉えるところから始める。
・それに照らして『後撰集』自体はどうなのか。表現方法、和歌観、撰集理念について、研究史の現在を紹介する。
・次いで、『後撰集』の中でも、正規の四季や恋の部に収まらない雑(ぞう)の部4巻をとりあげて、具体的に見ていく。

『後撰集』は、撰集過程にも個々の歌にも、女性的契機が強く働いている作品であると言われる。雑部もまたその色合いが濃く、巷の歌語りの世界にも連接している。『古今集』の典雅な枠から、多様な方向に抜け出る可能性を雑部は内包していたと思われる。

結果として、勅撰集として許容される＜和歌的なもの＞の外縁が、どの辺りにあるのかを見極めることになる。

【評価方法】

定期試験時レポート、及び授業時の［マトメメモ］による。

【授業科目名】 日本文学(古代)	【担当者】久保木寿子

【開講期】 2年 後期

【授業目標】 『和泉式部日記』を取り上げる。この作品は平安女流日記の中でも際立って和歌(贈答歌)の比率が高い。<歌を含む散文>という平安期に顕著な表現機構を理解し、そのような表現が招来される和歌史的必然性について考える。

【テキスト・参考書】

岩波文庫『和泉式部日記』・配布プリント

参考書は最初の授業で紹介する。

授　業　計　画

和泉式部には『日記』以外にも１５００首弱の歌集があり、実に多様な詠歌方法を試みている。授業は、この歌集にみられる群作歌の方法を検討することから始める。『日記』の方法に通じるものと考えるからである。

『日記』は短い作品なので、読了しておいてほしい。

この作品は『日記』と言いながら、贈答歌が重要な骨格を成し、和歌的な場面が積み重ねられて行く。贈答歌は、古今集や後撰集が作り上げた観念の世界を、共通理解しているところに成り立つものである。女歌の典型とも言われる和泉式部の歌は、共通理解に依りながらも時に攻撃的に展開し、敢えて相手との緊張関係を作っていきもする。

『日記』のいくつかの場面を取り上げながら、このような和歌の在り方と、それを支える散文の機能について具体的に見ていくことになる。

最後に、和泉式部の『日記』を含む多様な試みを、初期定数歌との関連の中に位置付け女歌なる歌の不幸について触れる。

【評価方法】

定期試験時レポート、及び授業時の［マトメメモ］による。

【授業科目名】 日本文学（近・現代）	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 日本の近・現代文学を代表する、重要な「作品」や「作家」をじっくりと研究して、その「読み、理解」を深めること、あわせて、「研究の方法」を身につけることが、目標である。本年は森鴎外、夏目漱石、有島武郎を中心とする。可能ならば、永井荷風の作品にも及ぶ。	
【テキスト・参考書】 上記の作家の代表作をいくつか読んでもらうが、具体的には講義進展の中で、指示する。	

授　業　計　画

○　まず、森鴎外、夏目漱石、有島武郎、永井荷風という、明治～大正の大作家たちの文学の、それぞれの特徴を論ずる。

○　代表作のいくつかを読んでもらいつつ、彼らの作品を、具体的に分析して行く。講義で扱う作品は、今のところ、次のようなものを考えている。

森鴎外　　『舞姫』『雁』『阿部一族』等

夏目漱石　初期作品、『三四郎』『それから』『行人』『明暗』等

有島武郎　『カインの末裔』『或る女』等

……なお、これら全てを課題にするわけではない。幾つかを選ぶつもり。どの作家を先に講義するかは、受講生の状態を把握する中で決める。

○　すべて講義形式でおこなう（ゼミのように発表を求める事はない）。

○　「作品」について論ずるだけでなく、その「作家」についても、なるべく詳しく論じたい。中でも、彼らに共通する「外国体験」のもつ意味を考えることが、一つのポイントになる。それが、彼らの思想と芸術をいかに育み、どのような意味を持ったか、また、日本近代の文化の流れの中で、いかなる位置をしめるか、という問題に迫りたい。

【評価方法】

○　筆記試験（自筆ノート参照可）。講義に基づき、論ずる形式。

○　講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。

○　2、3回の小レポート（10分程で書いてもらう）や出席については、講義の時に述べる。

【授業科目名】 漢文学	【担当者】東喜望

【開講期】 2 年　後期

【授業目標】
中国古典文学の代表的な作品を精読し、作品の背景にある中国の思想や文化、歴史などについても理解を深める。
作品は、日本の文学にも影響を及ぼした散文文学をとりあげるが、まず下記を精読することからはじめたい。作品に関連する中国の自然や風土、地理や風俗を映像で紹介する。　鄭還古『杜子春伝』・瞿佑『剪灯新話』

【テキスト・~~参考書~~】 近藤春雄編『中国志怪・伝奇選』

授業計画

授業はおよそ以下の項目にそって進める。

Ⅰ. 講義：　1. 中国古典文学概説
　　　　　2. 漢文訓読の基礎

Ⅱ. 講読：　1. 唐代伝奇小説
　　　　　2. 明代小説

Ⅲ. 講義：　中国古典文学の日本文学に与えた影響

【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 日本中世史 **【担当者】** 西村汎子

【開講期】 2年前期

【授業目標】

中世の日本はどんな特色を持った社会だったかを考える。当時の支配者は草深い農村や都に住む民衆たちの変化を基礎にどんな支配体制を作ったか。また民衆は何を考えどんな生活や文化を生み出したかを解明していきたい。

【テキスト・参考書】

参考書：『体系日本の歴史』４～８巻（小学館　１９８８年）

授　業　計　画

はじめに、日本の中世の本質に関する研究史を学ぶ。ついで平安末期から社会の深部においてどんな胎動があり、それが政治の上でどんな変化をもたらしたのか、民衆の側で作られた共同組織とその役割、民衆の意識や生活、文化について学ぶ。後半では絵巻物などを活用したいと思っている。講義は次の順序で行う予定である。

はじめに
　参考文献と日本中世史の諸問題
１．古代から中世への転換
２．鎌倉幕府体制の成立
３．下剋上の社会
４．中世民衆の意識と文化
５．日欧文化比較

【評価方法】

期末のレポートによる。いくつかの課題のなかから、好きなテーマを選び絵巻物を使って具体像を描く。

【授業科目名】　日本近世史	【担当者】　西脇　康

【開講期】　2年後期

【授業目標】

江戸時代は幕府が朱子学を封建支配を実現するためのイデオロギーとして採用したため、男女関係がすべて"男尊女卑"のイメージで固定され理解されがちである。はたして、それは正当な歴史事実にもとづいたものか、庶民の行動のなかから再検討してみたい。

【テキスト・参考書】

講義の中心となる典拠については、適宜オリジナルの史料を配布する。テキストは口頭で指示する。

授　業　計　画

江戸時代後期の庶民(百姓・町人)男女の行動様態について、オリジナル史料を使用して具体的に明らかにする講義を行う。史料批判のうえで、如何なる歴史の実像が描けるのか、いくつかのアプローチのあり方から、どれを正当なものと位置づけるべきなのか、を自由な立場にたって考えてもらう材料としたい。

講義は、以下のテーマを扱う予定である。

1. オリエンテーション —三下り半との出会い—
2. 近世を規定する枠組みについて —近世史総論—
3. 江戸後期の風俗 —若者組・夜這い・婚姻など—
4. 男女の行動パターンと「家」相続
   a. 若者組と娘組の交流　b. 欠落　c. 媒妁<嫁入り・婿入り>　d. 婚姻
   e. 不縁・離縁　f. 不義　g. 出奔　h. 強姪　i. 後家　j. 心中
5. 階層別にみる男女関係の数量的特徴 —婚姻・出産・離婚など—
6. 家族の労働力編成と女性の位置
7. 刑法における男女関係の規定と女性の位置
8. まとめ —はたして女性は抑圧に甘んじていたか—

【評価方法】

学期末に筆記試験を実施する。ただし自筆ノートは持ち込みを認めるので、講義ノートをしっかりつくること。

【授業科目名】　日本近現代史	【担当者】　平賀明彦

【開講期】　２年前期・２年後期

【授業目標】
近代以後の歴史を学ぶことにはどのような意味があるのだろうか。近代社会、近代国家といった表現に含意されている「近代化」とは、具体的にどのようなものとしてとらえるべきなのだろうか。これらのことを具体的な歴史過程を通して考えてみたい。

【テキスト・参考書】
テキスト：特になし
参考図書：藤原彰・今井清一編『十五年戦争史』　青木書店など多数。講義の中で、逐次紹介する。

授　業　計　画

幕末・明治維新以後、「近代国家」としての日本がどのような特徴をもって成立していったのかを考えながら、とりわけデモクラシー状況とその後の戦時体制の下での人々と社会のむすびつきについて検討を加えていく。講義の大きな枠組みは以下の通り。

◇近現代史を学ぶとは
◇対外的危機と明治維新
◇中央集権的近代化と民権の相克
◇確立期資本主義の構造
◇明治憲法体制の枠組み
◇社会矛盾の激化と諸運動の昂揚
◇大正デモクラシーの意義と限界
◇民衆動員組織の成立
◇戦争と民衆意識

【評価方法】
年２回のレポート。
講義の中で小レポートを出してもらう場合がある。

【授業科目名】 近代と西洋思想	【担当者】針谷寛

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】 近代社会を担い，推進してきた考え方について，その積極的内容の核心点を明確にするとともに，そこに含まれる問題点を批判的に検討する。この両面について自らの頭で考えていくための素材を提供する。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。

参考書は講義のなかで紹介する。

授　業　計　画

ドイツ近代の思想家ヘーゲルの社会理論ならびにその後の諸理論を素材として紹介しながら進める。ヘーゲルは19世紀初頭のドイツにあって，ドイツを近代化することが不可欠の課題だと考えながら，その一方で近代社会の含む問題点もいち早く洞察し，両者の葛藤を理論的に解決しようと苦心した人物。それだけに彼の議論をとおして，一方ではヨーロッパ近代の思想家たちが近代社会に欠かすことのできない原則として堅持しようとしたのは何であったか，つまり近代社会像の基本骨格がはっきりと見てとれる。同時に，他面では近代社会と近代思想のかかえこんでいる問題が深くえぐり出される。

共同体と個人の関係を軸に議論を進めることになるが，ヘーゲルおよびそれに続く社会理論の枠内で終始するということではなく，ヘーゲル等の思想家が生きた19世紀の西欧社会とその思想に強くはたらいていた制約についても，今日の目から一定の批判的検討を試みる。時間が許せば，環境と人間の関係などの現代的問題にも論及したい。

【評価方法】

レポートによる。

【授業科目名】 アメリカ文学講読	【担当者】 中島好伸

【開講期】 2年前期　後期

【授業目標】

アメリカの短編小説を精読して、英語を読む力を養うとともに、文学作品の読み方を学びながらアメリカ文学の精髄に迫る。

【テキスト・参考書】

Anthology of American Short Stories（南雲堂）￥2,000を使用予定

授　業　計　画

一人1ページを担当してもらい、語句と内容の説明、感想と問題点の指摘をしてもらう。時代背景の説明を織りまぜながら、クラスで討論をして、次の担当者へとバトンタッチ。1時間の中で４人くらい進む予定で、一年で１０編くらいの短編を読む予定。アメリカ文学を通観してみたいが初期の頃の英語は難しいので、現代から逆に１９世紀の作品へと遡ることにする。自力で翻訳を見つけてもよい。ただし討論の中で「分かりません」「読んでません」は許されない。出席を重視する。

【評価方法】

前期一回、後期一回のレポートにより評価する。

【授業科目名】 英語表現Ⅱ	【担当者】 ｽﾜﾝ，ｳｨﾘｱﾑ　ﾛｰﾚﾝｽ

【開講期】　２年　前後期

【授業目標】

このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。

【テキスト・参考書】

ありません

授　業　計　画

いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキット作り、テープの聞き取りをする。

以下のような項目にそって進める。

1. friendly greetings
2. making choices
3. misplacing and looking for things
4. using things
5. talking about accidents

【評価方法】成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。

【授業科目名】　英語表現Ⅱ	【担当者】　マーク　コフリン
【開講期】　２年前期　後期	
【授業目標】　このカリキュラムでは、生徒に英語で話す機会を与え、又自信と語彙力を高めていき、日常生活で使えるような英語に取り組んでいく。	

テキスト：<u>Ｌｉｓｔｅｎ　ｆｏｒ　Ｉｔ（１９９５　ｅｄｉｔｉｏｎ）</u>

著者名：Ｊａｃｋ　Ｃ．Ｒｉｃｈａｒｄｓ、Ｄｅｂｏｒａｈ　Ｇｏｒｄｏｎ　ａｎｄ　Ａｎｄｒｅｗ　Ｈａｒｐｅｒ

出版名：Ｏｘｆｏｒｄ　ｐｒｅｓｓ．

定　価：￥１７００

授　業　計　画

このクラスでは会話が中心であり、次のもので構成されている；配布物をペアになって練習する、オーディオとビデオを聴き、又クラスのテキストも使用する。

このコースは英会話が初級の生徒や、英語を話すことをこわがっている生徒の不安を和らげていく。このクラスでは英語が無気力にさせるものであると感じている人の積極的態度を助長させ、又自信をつけられるようになっている。

このクラスのペースと教材は、英会話初級の生徒に合わせたものである。

評　価：このコースの重要視している点が英語で自己を表現することにあることから、テストはすべて口頭で行われる。

必要条件：クラスに参加することと、出席することが必要。

【授業科目名】	イギリス文学史	【担当者】	田中　安行
【開講期】	2年前期		
【授業目標】	イギリス文学の大きな流れを縦軸に眺めながら，横軸として各時代の特徴的な作品を取りあげてその時代の人々の生活や考え方，社会思想，時代背景などを考えていく。イギリス文学を学ぶことによって私たち日本人の考え方や生き方を別の視点から眺め，これからの時代にどのようなことが必要とされるのかをいっしょに考えていきたい。		
【テキスト・参考書】	G·C·ソーンリー「概説イギリスの文学」桐原書店、1995年 川崎寿彦「イギリス文学史入門」研究社出版、1992年 川崎寿彦「イギリス文学史入門」研究社出版、1992年 パット・ロジャーズ「図説イギリス文学史」大修館書店，1990年		

授　業　計　画

1. 各時代が生み出した特徴的な作品を翻訳又は原文で紹介しながら，その時代背景とそれらの作品の必然性を考える。
2. 文学作品のジャンルの特徴を考えながら，イギリス文学の発展の跡を辿りそれらが現代とどのように関わっているかを考える。
3. つねにイギリス文学の本質を考えながら，多くの文学者，詩人，劇作家に触れてそれらがイギリス的資質の形成にどのように関わっているのかを考える。

【評価方法】

平常点とレポート及び筆記試験で行う。

【授業科目名】 アメリカ文学史	【担当者】 中島好伸

【開講期】 2年　後期

【授業目標】

アメリカ文学をアメリカの歴史の中に位置づけ、社会の変化と文学の関係を探る。

【テキスト・参考書】

必要なときにはコピーを使用する

授　業　計　画

アメリカ文学は、アメリカの歴史や国土と密接な関係にある。したがって、独立革命のあたりから、時代を追って文学作品の特徴を紐解いていく。現在、文学史に無視されてきた作家、作品を掘り起こす作業が盛んに行われているが、この講義では、必要に応じて文学史の書き換えについて触れるに止め、従来の文学史に即して、一つの時代に一人の作家を取り上げながら、時代背景の説明や作品の解釈を試みたい。また、文学研究は作品を読まなければ始まらない。レポートを書くに当たってはもちろんのこと、できるだけ多くの作品を読んで欲しい。取り上げる作家は以下の通り。

1）ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』
2）ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
3）マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』
4）セオドア・ドライサー『アメリカの悲劇』
5）F．スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャッツビー』
6）ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
7）J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』
8）バーナード・マラマッド『アシスタント』
9）アリス・ウォーカー『カラー・パープル』
10）トニ・モリス『ビラヴィッド』

【評価方法】

レポート

【授業科目名】 西洋文学思潮　　**【担当者】** 村山知恵

【開講期】 2年　前期

【授業目標】 最近は日本の文学作品もあまり読まれないところへ持ってきて、西洋の文学は大変だと思われるかもしれないが、それぞれの名作には世界の歴史そして普遍的な人間像が含まれていて、私達の生き方に刺激を与えてくれるものと思います。そこを皆さんと味わいたい。

【テキスト・参考書】
「チャタレイ夫人の恋人」 ロレンス
「悲しみよこんにちは」 フランソワーズ・サガン
「カラーパープル」 アリス・ウオーカー

授　業　計　画

① 「チャタレイ夫人の恋人」
作者、ローレンスの生きた時代、イギリスの状況等を説明します。
「チャタレイ夫人の恋人」の作品の意義、その衝撃等を知った上でチャタレイ夫人の生き方を考えます。
ビデオ作品によってこの作品を味わいます。

② 「悲しみよこんにちは」
作者、サガンの時代的背景を説明します。
この作品は女性としての生き方というより、子供から大人への脱皮が主なテーマなので学生さん自らの思春期と重ね合わせながら作品をとらえていきたいと思います。
ビデオ作品によって、この作品を味わいます。

③ 「カラーパープル」
作者ウォーカーの時代的背景とアメリカという特殊性を説明します。
この作品も女性の生き方ばかりではなく様々な差別の問題が含まれていますので、それも合わせて考えていきましょう
ビデオもあります。

【評価方法】 レポート。

【授業科目名】 芸能史	【担当者】高橋秀雄
【開講期】 2 年　　後期	
【授業目標】 芸能という言葉は、今日、もっとも広く用いられ、およそ肉体による演劇的、舞踊的、音楽的表現を総称するが、本来の芸能の語義を確認するとともに、その歴史的な変転について詳しく論述する。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：各種芸能関係書（その都度指示する）	
授業計画	
芸能とは何かという命題を考究しながら、芸能の本質を明らかにし、さらに芸能事象の内容を分析し、それが史的にはどのように展開するのかを論述する。 1. 芸能の語義 2. 芸能ということばに含まれる内容 3. 芸能伝承論について 4. 芸能の種類 5. 芸能史としての存立 6. 祭りと芸能 7. 民俗芸能論 ―長命祈願としての神楽 8. 民俗芸能論 ―豊作祈願としての田楽 9. 民俗芸能論 ―疫病退散祈願としての風流 10. 現代芸能論	
【評価方法】 1. 期末のレポート 2. 授業時の小レポート 3. 授業時の平常点 ｝左記3項による総合評価	

【授業科目名】 映像文化論　　**【担当者】** 長崎　一

【開講期】 ２年前期

【授業目標】

人々に常に注目されている映画の100年にわたる発展の歴史を改めて認識してもらいたい

【テキスト・参考書】

特になし

授　業　計　画

映画が誕生して一世紀が経過した。今日ではテレビを中心とした多彩な表現媒体にも応用され、映像は人々の生活にとって欠くことの出来ないものとなった。いわゆる映像の時代である。
本講では映画の誕生をふりかえり、活動写真として庶民の間に圧倒的な人気を獲得した映画が100年の歳月の間に、トーキー、色彩、ワイドスクリーンと発展したプロセスをとり挙げるとともに映画が、いかに社会文化に影響を与えたかを具体的な作品を紹介しながら詳述してゆきたい。
また有名監督や映画俳優などの興味深いエピソードにも言及したい。

【評価方法】

出席状況とレポートによる採点

【授業科目名】 比較文学	【担当者】高橋伸一
【開講期】 2 年　　後期	

【授業目標】

日本の近代・現代文学は、否応なく西欧文学の思潮に洗われながら存立してきた。この授業では、西欧文学が日本の知性感性によってどのように取り込まれ、自己の表現様式を確立していったのかという問題を、翻訳論を中心に考える。

【テキスト・参考書】

随時プリント

授　業　計　画

内容

1　西欧の翻訳論概説

2　西欧の翻訳論の歴史

3　西欧の現代翻訳論

4　日本における西欧文学の翻訳とその影響

5　日本における近代詩の成立と西欧詩の翻訳

6　日本における現代詩の展開と西欧詩の翻訳

【評価方法】

出欠状況とレポートの総合評価

【授業科目名】 東洋文化史	**【担当者】** 山口洋
【開講期】 2 年　前期	

【授業目標】

中国の歴史を中心に「東アジア世界」とは何かを考える。また、史料からどの様にして地域や文化の特徴・変化を読み取るか具体的な事例を紹介し、その中から歴史研究の方法と歴史的批判精神を理解し身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキストは必要に応じてコピーを配布する。
参考書リストは開講時に配布する。

授　業　計　画

中国は世界四大文明発祥地の一つであるとともに、東アジア世界の中心に位置することから、古来より周辺諸国との政治や文化の交流が見られ、そこには融合と摩擦が生じてきた。本講座では、中国の文化や社会の担い手であった人々の事跡を考察し、中国および東アジアにおける文化交流の諸相を概観する。また、出土品や図版などのビジュアルな資料もできるだけ紹介し、東洋史学の最近の成果にも触れたい。具体的には、下記の項目について授業をすすめる。さらに、講義テーマに関する受講生の要望も取り入れたいので、受講生諸君は何に関心があるのか、何を知りたいのかをよく考えてくること。

1　東洋の概念
　・東洋の語義と概念・東洋史学の成立と発展
2　アジア史の地域構造論
　・アジアの区分・風土と歴史
3　文字の歴史（歴史学と文字論－アジア史の場合）
　・失われた世界の発見・砂に埋もれた文字・アジアの未解読文字
4　中国史の基礎
　・時代区分論・中国の歴史書と歴史家
5　中国の歴史１（内的秩序と対外関係）
　・中国の皇帝・中国と周辺諸国の交流（遣唐使をめぐって）
6　中国の歴史２
　・中国史における女性
7　中国の宗教
　・民衆の宗教－道教・西域伝来の宗教・宗教と政治権力
8　中国の科学技術（発明と伝播）
　・紙の発明とその後・火薬と中国人・暦と天文

【評価方法】　レポート・筆記試験を総合的に評価する

【授業科目名】 現代日本政治	【担当者】梅田欽治
【開講期】　2 年　　後期	

【授業目標】

現代日本政治の諸問題について、歴史的考察にもとづいて認識を深め、社会人に必要な「政治」への関心と思考能力を育てる。

【テキスト・参考書】

授業のなかで資料を配付し、参考書を紹介する。

授　業　計　画

いまの若者は「政治」に無関心だといわれている。本当だろうか。
「戦後50年」の昨年(1995年)は、阪神大震災で明け、オウムの悪業に怒り、沖縄でのアメリカ海兵隊員による少女暴行事件への憤激を通じて日米安保体制再検討の世論が広がるという一年であった。「政治」に無関心でいられるのだろうか。
現代日本政治の認識を深めるためには、20世紀の歴史、とくに第二次世界大戦とその後の歴史を学習しなければならない。

(1)20世紀はどういう時代か。
(2)現代日本政治の原点〜第二次世界大戦と戦後民主改革
(3)大日本帝国憲法と日本国憲法
(4)現代日本政治の基本問題
　(a)平和・民主主義
　(b)人権
　(c)環境
　(d)宗教
　(e)天皇制
　(f)安保条約・アメリカ軍基地・自衛隊
　(g)戦争責任・戦後補償
　(h)国際連合(国連)
　(i)核問題
これらの事柄を参考に、受講学生の質問をとりあげて対話をしたい。

【評価方法】

出席状況・受講態度および定期筆記試験

【授業科目名】 日本女性史	【担当者】 西村汎子

【開講期】 2年前期

【授業目標】

女性が困難を乗り越えて、真に人間らしく生きていく展望を得るために、過去の女性の歴史を振り返ってみることは重要であろう。半年の課程なので、原始から近世までの前近代の女性史を中心とし、近代以降には簡単に触れる。

【テキスト・参考書】

テキスト：『日本女性の歴史ー性・愛・家族』（総合女性史研究会編　角川書店）

授　業　計　画

各時代の労働のあり方、財産権、婚姻形態、家族関係、道徳観などに注目しその中でたくましく生きた女性の生涯についても，できるだけ取り上げていきたい。当時の法令、日記、文学、絵巻などを通じて女性たちの生活を考えて行く。次のような順序で進めていく予定である。

1．原始女性は太陽であったー原始の平等生活
　1）男女平等時代の存在　2）性別役割分担
　3）性差別を生まない理由　4）婚姻家族関係
　5）神話の中の女性像
2．性差別の始まりー古代の家族生活
　1）律令制度と家父長制　2）財産相続
　3）万葉集にみる民衆の生活　4）平安貴族の妻の生活
　5）紫式部はなにを言いたかったか
3．嫁取りへの動きー中世の女性たち
　1）家業の継承と家父長権の強まり　2）男女の協力と役割分担
　3）分割相続と後家の権限　4）婿入りから嫁入り婚へ
　5）室町戦国期の庶民の女性像
4．封建道徳の確立期ー近世の女性たち
　1）農村のくらし　2）女の稼ぎ
　3）封建道徳の下で　4）公娼と私娼
　5）滑稽本の女性たち
5．近現代の女性解放
　1）明治民法下の女性　2）戦後の女性解放
　3）男女雇用機会均等法以後

【評価方法】

期末テストによる。あらかじめ提起した課題の中から出題する予定。

【授業科目名】 現代女性論	【担当者】 富永静枝

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

女性を取り巻く社会環境が大きく変わった現在、女性の生き方は伝統的な生き方だけではなく、多様な生き方が可能になった。これからの女性は自己の能力を生かしながら自分の人生を自立して生きる為にはどうすべきかを考えていく。

【テキスト・参考書】

労働省婦人局編『働く女性の実情』(平成7年版)

辻谷みよ子・金城清子著『女性の権利の歴史』(岩波書店)

授　業　計　画

近年女性を取り巻く社会状況は大きく変化し、女性の生き方も多様化している。男女雇用機会均等法や育児休業法も施行され、女性の社会進出も大きく進展した。しかしながら伝統的な性役割分業の社会システムは依然として強固に存在し、そのことが女性の自立を阻んでいるだけでなく、多くの社会問題を引き起こしている。本講ではこのような社会状況の変化や、性別役割分業を基本においた社会システムの問題性、家族家庭の諸問題や女子労働問題など女性の視点から考えて行く。

1、女性問題とは何か
2、女性の権利の歴史
3、女性の自立と性別役割分業
4、女性労働の諸問題
5、高齢社会と女性・家族・家庭
6、男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き

なお講師の側からの一方的な講義だけではなく、女性問題に関する新聞記事やビデオなどを素材にしたディスカッションなども行うので、受講生は討論に積極的参加するよう心掛けてください。

【評価方法】

各学期末のレポートと平常授業時に実施するミニレポートによる総合評価

【授業科目名】 文化人類学	**【担当者】** 白井和子

【開講期】 2 年　前期

【授業目標】

世界の諸民族の文化の多様性を結婚という制度を通して紹介する。諸民族に見られる結婚や家族のあり方の多様性を理解することによって結婚や家族に対する私達の考え方の特徴を知る。

【テキスト・参考書】

参考書　和田正平　『性と結婚の民族学』　同朋社

授　業　計　画

同じような自然環境にもかかわらず人々が異なった様式の生活を営んでいる一方で，違う自然環境の人々が同じような生活様式を営んでいることは，印刷物やテレビなどのマスメディアを通して知られています。また旅行などで実際に身をもってそれらを体験している人々も多いことでしょう。しかし，そのような情報や体験が実は表面的な理解や知識にとどまっていることがしばしば見受けられるようです。では，自分が身につけている文化とは異なる文化を，興味本意に取り上げることに終始することなく，理解することができるのでしょうか。もし理解することができるとするならば，どのようにして理解するのでしょうか。講義では異文化を理解する思考と方法の一つの例として，文化人類学者のおこなうフィールド・ワークについて考えたい。

ところで，カルチャー・ショックという言葉を知っていますか。生まれ育った土地を離れてよその土地で暮らしていると，それまで当然のことと思っていた常識が全然通じなくて，精神的に落ち込んでしまうことがあります。自分が依ってたつ諸価値に揺さぶりがかかっているわけです。このようなカルチャーショックを受けることが，異文化理解への最初の一歩と言えるのかもしれません。自分の常識が覆され，生活感覚がひっくり返り，生活経験がひろがっていくこと，そして人間とは何かという問いかけに戻っていくこと，これが文化人類学の楽しみの一つのようです。少し苦い味のする楽しみではありますが。

そこで，私たちの生活の中で強調されているもの－たとえば結婚，性と生殖，家族，父・子関係，母・子関係など－が，他の社会の中ではどのように捉えられ，制度化されているのかといったことについて検討します。この作業は，私たちが自分の生活を見直していく契機になるでしょう。

【評価方法】　出席は取らない。原則として学年末の試験の成績を評価の対象とする。ただし授業中に見るビデオなどについて感想文や意見文を書いてもらうことがあり，そのような小文を評価に加えることはありうる。

【授業科目名】 社会思想史	【担当者】針谷寛

【開講期】 2年 後期

【授業目標】

個人の自由と社会的共同について，客観的な場面と問題に即して自らの頭で考えていくための素材を提供する。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。

参考書は講義のなかで紹介する。

授 業 計 画

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりにして，個人と共同体の関係を検討する。前提としてポリス市民社会像，中世都市市民社会像を見た後，近代的市民社会理論としてカントの社会理論を紹介しながら検討する。フランス革命と同時代のドイツで，カントは近代市民社会の理念とその実現を追求した。個人の自己決定権から共同社会のあり方を構成していくカントの社会理論は，近代社会を支える大原則を理論的に明示している。

講義では，こうした考え方がどのような問題（状況）への応答として生み出されたのか，また，このような近代的思考原則がどのような課題を含むものであったかという点をあわせて検討していく。

なお，関連するテーマとして，できれば2年前期の近代と西洋思想を受講されることを希望する。

【評価方法】

レポートによる。

【授業科目名】 西洋史	**【担当者】** 増谷　直子

【開講期】 後期

【授業目標】

ヨーロッパの近代に成立した「国民国家」の特徴をフランスを例に検討し、その歴史性を明らかにする。

【テキスト・参考書】

テキストは特に指定しない。
参考書は授業のなかで紹介する。

授　業　計　画

1．革命前のフランス社会

2．革命による変化－均質的社会へ

3．言語の統一

4．公教育の成立の意味

5．政治参加と「国民」

6．宗教の位置の変化

7．生活の変化

8．映像を資料に考察
9．　　〃

10．ナショナリズム

11．アンティセミティズムとは？

12．ドレフュス事件

13．植民地支配とフランス

【評価方法】

学期末試験に加えて、小テストあるいはノート提出による日常点

【授業科目名】 国際関係論　**【担当者】** 平井文子

【開講期】 2 年　前期

【授業目標】

93年のイスラエル-パレスチナ暫定自治合意以来、和平のプロセスは一歩一歩前進しているが、アラブ(パレスチナ)-イスラエル紛争のルーツから今日に至る経過を把握し、今後の中東の行方を探る。

【テキスト・参考書】

高橋和夫『アラブとイスラエル ― パレスチナ問題の構図』、講談社現代新書

授　業　計　画

はじめに、パレスチナの地は誰のものかという観点から、古代から近代までの歴史をざっとふりかえる。

テキストに従い、以下のような順で進める。

1. ユダヤ人国家イスラエルの成立
2. 米ソ対立のもとでの中東紛争
   第3次中東戦争、第4次中東戦争
3. イスラエル2正面作戦
   エジプト-イスラエル和平、PLOとの対決
4. インティファーダ
   占領下パレスチナ人の抵抗
5. 中東和平プロセスの開始。

【評価方法】

レポート

【授業科目名】 アジア・アフリカ論	【担当者】佐藤いづみ

【開講期】 2 年　　前期

【授業目標】

1900年前後という20世紀の出発点に焦点を当て、列強諸国の「世界分割」とそれに対する抵抗を、特に東南アジアとアフリカで見わたし、「民族」について考える。

【テキスト・参考書】

- テキストは特にない。
- 参考書『講座世界史5 強者の論理』(東大出版会)『アフリカ現代史Ⅰ～Ⅲ』(山川出版)

授　業　計　画

部族間抗争、少数民族問題----等、今日アジア、アフリカで繰り広げられている様々な民族問題をさぐっていくと、帝国主義列強諸国による「世界分割」の時代に端を発していることが多い。
資本や労働力の「国際化」「ボーダーレス」が強調される今日にあっても、なお大きなインパクトを持つ「民族」というものについて、東南アジアとアフリカの歴史に即して考えたい。

① 何故「アジア・アフリカ論」か。
② アジアとアフリカの「1900年」。
③「世界分割」は何故おこったか。
④ 分割される側 --- アフリカの部族と伝統社会.
⑤　　〃　　--- アジアにおける中華帝国と冊封体制
⑥「ブーア戦争」とその後の南部アフリカ.
⑦ 東南アジアにおける植民地体制と人々のくらし --- インドネシア・ベトナムの場合.
⑧ 反植民地運動＝民族国家独立 ---の持った様々な課題 --- ベトナムの場合.

【評価方法】

期末にレポート提出

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】東喜望

【開講期】 2 年　前後期

【授業目標】
○海洋文化圏の説話
大陸から見れば、日本はその対岸に浮かぶ島嶼群にすぎない。日本のよく知られている伝誦説話でも、その溯源をたどると広くアジアの各地に及んでいるものがある。そんな神話・伝説・昔話をとりあげ、歴史には記されなかった民族のルーツや文化の伝播についても考察を深めていきたい。手初めに下記をとりあげる。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

・今年のゼミは、まず、学外研修についての準備学習から始める。それぞれ担当した領域について、よく調べて報告すること。

・次いで、昨年、残した課題について研究を深める。また、陸地や山地に生きた人々の語った民話とその背景についても研究を深めたいと願っている。

〔研究予定の課題〕
1. 徐福伝説
2. 桃太郎説話
3. 遠野物語・山の人生（柳田国男）

【評価方法】

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】久保木寿子
【開講期】 2年 前後期	

【授業目標】一年次の学習の上に立ち、『源氏物語』第二部（若菜上～幻）の研究を行う。六条院の内部崩壊という主題と関わって、物語の方法が大きく変わる。盤石なはずの六条院はなぜ崩壊するのか。どう崩壊していくのか。紫上の心理展開の解明を中心課題としつつ、仕組まれた手法について考えていく。

【テキスト・参考書】

テキスト、参考書については、最初の授業で指示する。

授　業　計　画

［前期］

1、二条院・二条東院から六条院へと、物語の場は拡大している。この二条と六条の距離が、第二部の構想を支えることになる。先行論文を読みながら、場の確認をするところから始める。

2、（5月、京都へ研修旅行。源氏物語に関連する場所を実地に見て“土地勘”を得る。事前準備とまとめ。各自・あるいはグループで、テーマを持って臨む）

3、きわめて読みにくいところであるが、「若菜上」をとりあげる。第一部の過去が呼び戻され、様々な捉え返しが行われる巻である。その中から、新たに登場する女三宮の未熟な個性が、六条院体制（紫上・光源氏）を相対化してゆくことになる。

4、授業の進度を越えて、「若菜下」まで目を通すことが課題となるので、そのつもりでいてほしい。

［後期］

1、第二部最後の「幻」巻を読む。「若菜」巻の時期を含む過去が、退場寸前の源氏の目から、さらに捉え返される。これを批判的に検討することで研究のまとめをしてゆきたい。

2、第三部十三帖がなぜ書かれなければならなかったのか、第二部が抱えたままの問題があるはずである。授業では触れえないが、各自第三部を課題としてほしい。

【評価方法】

定期試験時レポートによる。

【授業科目名】　教養演習Ⅱ	【担当者】栗田廣美

【開講期】　２年前期・２年後期

【授業目標】

【日本近代文学研究】「教養演習Ⅰ」で身につけた「読み」の力を発揮して、作品や作家についての、研究史を意識的に見据えた研究方法を学ぶことをめざす。

【テキスト・参考書】

教科書は用いない。必要に応じてプリント等を配布する。

授　業　計　画

文学研究は、「教養演習Ⅰ」「日本文学(近・現代)」の項にも記したように、「自らの内部に湧き起こるイメージと向き合う」ことを本質（かけがえのない本質）とするが、同時に、過去・現在の多くの読者・研究者による、研究の蓄積を踏まえたものでもある。

「日本近代文学」に関しても、豊かな研究の歴史があり、その中で生み出された数多くの論文の中には（ツマラヌものもあるけれど）、作品や作家に関する、多くの優れた発見や、「読み」の多面的な可能性への示唆がある。それは、いわば、「作品・作家」をめぐる、時空を隔てた、大きな、魅力的な討論会のようなものだ。

二年次のゼミでは、作品に関する討論の中で、こうした、過去・現在の研究者による優れた論文の検討をも、一つの重点として行いたい。

扱う作品は、諸君と相談し、なるべく諸君の問題意識に沿う形で決定したい。
小レポートの課題が、数回ある。

【評価方法】

平常点。特に、積極的に考えようとする意欲を重視する。レポートも加味する。

【授業科目名】 教養演習Ⅱ「忠臣蔵研究」2　　**【担当者】** 高橋秀雄

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】 歌舞伎の代表的作品に「仮名手本忠臣蔵」があるが、この題材となった仇討事件は、江戸時代の封建社会の実情を知る好個の資料であり、また、江戸の文化を探究する材料としても貴重なものといえる。前年からの研究をさらに進め、江戸の政治、経済、文化などの特色を把握させる。

【テキスト・参考書】

テキスト：浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」、歌舞伎台本「仮名手本忠臣蔵」

参考書：丸谷才一「忠臣蔵とは何か」ほか

授　業　計　画

前年に続いて浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」の輪読を進め、それぞれの観点からの意見を出し合って討議し、また、歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」をビデオで見ることによって、歌舞伎台本との差異を考究し、興味あるテーマを選んでグループによる研究を行い、その成果を発表する。

このことによって、江戸時代の芸能文化の認識を深め、さらにこの作品の背景にある江戸時代の政治、経済、風俗、あるいは封建社会のあり方を探索し、江戸時代の歴史を総合的に把握できるよう努める。

【評価方法】

1、各期末のレポート
2、演習時の小レポート
3、演習時の平常点

} 左記3項による総合評価

【授業科目名】 教養演習II 「英米児童文学を読む」	【担当者】 田中　安行

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

1年次からの作品研究を続け発展させる。各自のテーマ研究を深めるための文献研究を進め、後半には数回レポートを書く。

【テキスト・参考書】

猪熊葉子・神宮輝夫「イギリス児童文学の作家たちーーファンタジーとリアリズム」研究社出版

定松正「子どもと文学の冒険」

Peter Hunt: Children's Literature --An Illustrated History, Oxford U. Press, 1995

John R. Townsend : Written for Children, The Bodley Head, London, 1990

Donna E. Norton: Through the Eyes of a Child, Prentice Hall Inc. 1995

[授業計画]

1. 英米児童文学の歴史(英文) と評論を読んで自分の研究の位置づけも把握していく。
2. 夏休みに各自の取りあげた作品についてのレポートを15枚以上に書いて、自分の卒業レポートの構成をまとめていく。
3. 各自の作品の生まれた社会的背景や歴史的な意義などについても研究して幅広い作品理解ができるようにする。
4. 2学期には卒業レポートの個人指導と平行しながら、各自の進行状況をゼミで発表し、ゼミ全体の問題として討論を行う。
5. インターネットを使って外国の図書館や研究機関から資料を検索して利用する。

【評価方法】

平常点とレポート及び筆記試験で行う。

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】 中島好伸
【開講期】 2年 前期 後期	

【授業目標】

アメリカの代表的な短編小説を英語で読み、英語読解力を高めながら、アメリカ文学の流れを体系的に学ぶ。

【テキスト・参考書】

The Penguin Book of American Short Stories (Penguin)

授 業 計 画

引き続き、*The Penguin Book of American Short Stories* をテキストにアメリカの短編を読み進めていく。ゼミの進め方は一年次を踏襲し、レポーターの報告、討論と合評会を織りまぜながらアメリカ文学の特質を明らかにしていく。なお、今年度は、主に１９世紀の作家を取り上げる。取り上げる順序は以下の通り。

Willa Cather "Neighbor Rosicky"

Stephen Crane "The Bride Comes to Yellow Sky"

Francis Bret Harte "The Outcasts of Poker Flat"

Herman Melville "Bertleby"

Nathaniel Hawthorne "Young Goodman Brown"

Edgar Allan Poe "The Fall of the House of Usher"

【評価方法】

年数回にわたるレポートとゼミ内発表に、出席平常点を加味して評価する。

【授業科目名】 教養演習Ⅱ	【担当者】富永静枝

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

二年生になるとまもなく就職活動を始め、やがて社会人として就職をして行く学生達に、経済的自立の重要性と女性の職場の諸問題を考えさせ、問題解決の方向性を探る。

【テキスト・参考書】 参考書：竹中恵美子編『新女子労働論』有斐閣、
『図表で見る女の現在』ミネルヴァ書房
柴山恵美子編『新・世界の女性たちはいま』(学陽用書房)

授　業　計　画

現代女性論ゼミ(Ⅱ)

前年度にひき続き現代女性の抱えている諸問題について考察するが、2年次では特に「女性と職業」に重点をおいて学習を深めて行く予定である。

学習内容はおおよそ以下の通りである。

1、近代日本における女性労働の歩み
2、生涯設計における就労の位置づけ~経済的自立を求めて~
3、女性労働の現状と課題
4、女性労働と法
5、女性労働の国際比較
6、男女共生の社会システム
7、男女平等を求める世界の運動に学ぶ

なお、職場における女性の状況を正しく認識し、問題解決の方向を探るために、調査や見学なども行う予定である。

【評価方法】

通常のゼミにおける発表内容およびレポート。

【授業科目名】　教養演習　Ⅱ　「日本女性史」	【担当者】　西村　汎子

【開講期】　２年前期　・　２年後期

【授業目標】

一年の教養演習で学んだ日本女性史の基礎的な学習の上に立って、日本女性史と関連のある史料を講読する。今年度は鎌倉幕府の記録である『吾妻鏡』から、女性の地位や生活・役割について物語っている部分を選んで研究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：『全訳吾妻鏡』全６巻（新人物往来社）
参考書　：『日本女性の歴史ー女の働き』『同左ー文化と思想』（角川書店）
『国史辞典』（吉川弘文館）その他。

授　業　計　画

『吾妻鏡』から以下のような問題について調査し、発表してもらう。

1．北条政子の婚姻と夫婦関係
2．源頼朝と乳母
3．乳母子のはたらき
4．武士の婚姻形態
5．戦争と女性

報告者は選び出した史料のプリントを用意し、内容の説明と問題点について報告する。全員による活発な討論を期待する。

【評価方法】

平常点および期末のレポートによる。

【授業科目名】教養演習・日本近現代史（Ⅱ）	【担当者】平賀明彦

【開講期】 ２年前期・２年後期

【授業目標】
１年次で修得した日本の近現代に関する基本的な理解を基礎にして、個々のテーマをよりクリアーにしていくための報告と討論を積み重ねていく。

【テキスト・参考書】
テキスト：ゼミの構成メンバーと相談して決定する。

授　業　計　画

基本的には１年次と同様の方法で、より専門的な文献を題材として輪読していく。但し、後半期は、個々のメンバーのテーマについての報告を積み重ね、相互に批判しあいながら、問題点を煮つめていくことに次第に重点を移していく。
その場合、構成メンバーは、次の点に特に力をいれるよう心がけること。
・自分の問題関心を明らかにし、研究テーマとして取り組むべき課題を鮮明にすること。
・そのテーマに即して、文献及び史料を探索し、早めにその所在一覧リストを作成すること。
・その上で、ゼミで数回行う、テーマ報告及び作業の中間報告会の準備をすること。

【評価方法】
報告内容等で評価する。

【授業科目名】　卒　業　研　究	【担当者】　専任教員

【開講期】　２年前期・２年後期

【授業目標】
学生各自が自主的にテーマを決めて作成する。ただし、共同研究も可。枚数は400字30枚以上。所属ゼミでの研究を基礎にすることが望ましい。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

執筆に先だちガイダンスを行い、その意義や叙述のしかたなど一般的な事柄について指導する。後期はゼミ担当教員が、研究資料の扱い方や研究方法など具体的な事柄について個別に指導する。レポート提出後、例年、発表会を行っている。

【評価方法】

教　職　科　目

【授業科目名】 書道Ⅰ	【担当者】神野雄二
【開講期】 2年 前期	

【授業目標】

書の表現・理論・鑑賞を通して、書と書教育の基礎・基本を理解する。

【テキスト・参考書】

○『書写指導、中学校編』 全国大学書写書道教育学会編、萱原書房

○『書道教育学要説』 久米公著、萱原書房

授　業　計　画

授業の前半は講義、後半は実技である。授業は、書と書教育の基本的な理解を目的としたものである。

内容は、文字について、書教育の意義と特質、姿勢と執筆法、用具・用材、書の歴史と書学、表現と鑑賞、指導計画と指導方法など、より広い観点から学習する。

実技は、書写教育の基本書体である楷書体・行書体・仮名を学ぶ。これらの書体が、正しく、整えて、速く、そして美しく書ける技術の習得をめざす。そのために中国と日本における名跡や名家の書を可能なかぎり臨書する。毛筆を主とするが、硬筆の実技も取り入れる予定である。

テキストは『書写指導、中学校編』を使用し、内容に応じて適宜プリントを配布する。

課題は実技作品とレポートとする。

【評価方法】 各時間に提出する作品、レポートと課題作品、そして出席状況により、総合的に評価する。

【授業科目名】 書道Ⅱ	【担当者】小峯恭子

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

毛筆・硬筆 両面から文字を正しく整えて速く適切に書く実技能力を高めることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト： 使用しない

授 業 計 画

書写（実技）を中心とする。日本と中国の数多い古典の中から代表的なものをとりあげ，これを参考にしながら漢字（楷書・行書）と仮名の実習を行う。まず写実的臨書を，次いで応用の創作を行う。実用書にも目を向ける。初講時には授業の進め方について具体的な話をするので硬筆の用意をして必ず出席のこと。

1. 硬筆基本
2. 九成宮醴泉銘
3. 孔子廟堂碑
4. 雁塔聖教序
5. 顔勤礼碑
6. 集字聖教序
7. 仮名基本
8. 変体仮名
9. 寸松庵色紙
10. 年賀状
11. 包み紙
12. 創 作
13. 硬筆まとめ

【評価方法】

平常点，出席重視

【授業科目名】 教育実習	【担当者】栗田廣美

【開講期】 2年前期

【授業目標】 実際に中学校に行き、「実習生」として学ぶ二週間ほどを中心に、事前の準備学習、大学に戻っての整理、総括等を含む科目が、二年次の「教育実習」である。その中で、「教育」ということを少しでも深く考え、身につけることが目標である。

【テキスト・参考書】

教科書は使用しない。実習ノート、プリント等を配布する。

授　業　計　画

「教室」「学校」という「場」は、（一年次「教育実習」の項にも書いたように）一面では日常性の中にあるが、同時に、生徒が、この文化・文明を受け継ぎながら、それを相対化しつつ新たなものを生み出す事を目指すという、特殊な緊張を伴った、一種の「躍動する空間」である。

実際に中学校に行き、この「空間」の中で、教壇に立ち、生徒に入り交じって生活する二週間は、緊張と（場合によっては）苦しみと、そして喜びに満ちた、貴重な体験になるだろう。過去の実習生も、「実習」を体験する中で、本当に教職に就きたいという切望を一段と強くすることが多かった。

中学校に行く時期は、実習校の都合にもよるが、六月が多い（実習期間中は、短大は「公欠」扱いになる）。

それ以前は、事前の準備を行う。

実習期間中は、短大と連絡を取りつつ、実習校の指導に従うこと。

短大に戻った後は、この貴重な体験を整理、総括するための学習をする。

【評価方法】 実習校からの評価を考慮しつつ、総合的に判定する。

博物館科目

【授業科目名】　博物館実習	【担当者】 上野　光子・髙橋　秀雄

【開講期】　２年前期

【授業目標】

学芸員として実際の場に臨む場合に必要な心構えと、基礎となる知識・技術の修得を目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない。必要に応じてプリントを配付します。
参考書　：全国大学博物館学講座協議会関西部会『博物館学概説』ほか。

授　業　計　画

２年次
(1) 博物館見学：４個所、事前事後講義、レポート提出
(2) 館務実習：１～２週間程度、事前事後講義、レポート提出

【評価方法】

(1)レポート、(2)作品、(3)平常点、(4)出席数、(5)館務実習評価、の総合点。

司 書 科 目

【授業科目名】 参考業務	【担当者】森崎冨喜

【開講期】 2年 前期

【授業目標】

参考業務は、図書館奉仕の一つであり、図書館利用者と資料・情報とを結びつけ、人びとの研究・学習活動を援助することである。

この授業では、参考業務の理念や組織・運営について学び、参考業務を遂行していくための知識を習得する。

【~~テキスト~~・参考書】

「現代図書館学講座 5：参考業務」 東京書籍 １９９０

「参考業務」 北嶋武彦編著 理想社 １９９４ （図書館学テキストシリーズ 8）

「レファレンスサービス：図書館における情報サービス」 長澤雅男著 １９９６ 丸善

授 業 計 画

（1）参考業務とは何か

（2）どんな仕事をするのか
- 利用案内
- 文献探索
- 事実調査
- 書誌サービス

（3）参考図書とレファレンス・コレクション
- 参考図書の検討
- 参考図書の手引き
- 参考図書の種類
- 非図書資料
- レファレンス・コレクション

（4）索引・抄録について

（5）データベースによる検索

（6）参考業務の組織・運営
- サービス方針
- レファレンス部門の組織
- 担当者、研修
- 施設と設備
- スタッフ・マニュアル
- サービスの記録、評価

（7）館種別参考業務の特色

（8）参考業務の変遷と課題

（9）主要参考図書の解題

（演習との関連で変更あり）

【評価方法】

ミニレポートならびに受講態度

【授業科目名】 参考業務演習　**【担当者】** 森崎富喜

【開講期】 2 年　前期

【授業目標】

参考業務演習では、演習問題を課し、調査の手順や参考図書類の使用法をマスターする。

【~~テキスト~~・参考書】

「参考業務演習」 北嶋武彦編著 理想社 １９９６ （図書館学テキストシリーズ 9）

「情報源と文献の探索」 長沢雅男著 丸善 １９９５

「日本の参考図書」 日本図書館協会

授　業　計　画

（１）参考業務の実際（レファレンス検索及び回答の手順）
　事例を示しながらレファレンス・プロセスを説明

（２）文献を探す
　書誌情報に関する質問、人物・団体に関する質問、
　歴史、文学に関する質問など、分野別に演習しながら
　関係する参考図書を覚え、調査の手順をマスターする。

（３）相互協力をどうすすめるか
　類縁機関、特殊コレクションの所在
　情報提供のネットワーク

（４）文献リスト作成業務
　書誌作成の手順

【評価方法】

ミニレポートならびに受講態度

【授業科目名】 資料目録法・同演習	【担当者】 椎葉敏子

【開講期】　2 年　　前期

【授業目標】図書館資料に対する資料組織法の一領域である資料目録法の基礎を学ぶ。
まず、日本目録規則１９８７年版改訂版に準拠して和書の目録を作成する。
次いで、英米目録規則第２版による洋書の目録にも言及する。

【テキスト・参考書】木原通夫ほか著「資料組織法　第11版　補訂版（１９９５年版）
木原通夫ほか著「資料組織法・別冊　演習問題集　緑版」第一法規
（上記の２冊は資料分類法・同演習で使用したもの）

授　業　計　画

現在、図書館の目録は、カード目録からコンピュータ目録あるいはオンライン目録への移行期にあると言える。新しい状況に対応してゆくにしても、目録の基礎をしっかり理解しておかねばならない。そこに強調点をおいて学んでゆく。

図書館目録とは
　目録の機能、種類
目録規則とは
　日本目録規則　等
記述
　８つのエリア（書誌的事項）
　ISBD区切記号
標目
　典拠ファイル
書誌階層
目録を取り巻く環境
　集中目録作業
　共同目録作業（書誌ユーティリティー）

【評価方法】課題提出、簡単な筆記試験を採点の対象にし、出席状況も考慮する。

【授業科目名】 資料整理法特論	【担当者】 椎葉敏子

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

図書館には多様な資料が収集され利用に供されている。ここでは「図書以外の資料」特に逐次刊行物、ＣＤやビデオなどの視聴覚資料を中心に組織法を学ぶ。同時に、オンライン、オンディスクによる目録作成法にも言及していきたい。

【テキスト・参考書】

授業中に必要に応じて参考図書を挙げていく。

授　業　計　画

前期の資料目録法で学んだ基礎を踏まえて、図書以外の資料の組織法をとりあげる。図書館にコンピュータを導入して行われている目録法についても出来るだけ具体的に学んでいきたい。

逐次刊行物とは

逐次刊行物の組織化

視聴覚資料の組織化

書誌情報

MARC

JAPAN MARC

J-BISC

オンライン・オンディスクの目録作成と利用（検索）

【評価方法】

課題提出、簡単な試験を採点の対象にし、出席状況も考慮する。

学籍番号・　　　　　　　　　　　　**氏　　名・**

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619